

科目名	臨床心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	木元 卓也	関連する資格	公認心理師、臨床心理士	

授業概要

臨床心理学の適用領域と臨床心理業務の実際について講義するとともに、各領域での事例を通して心理的援助の具体的方法について議論し学修する。
臨床心理学特論 は児童福祉施設、スクールカウンセラー及び被害者支援での実務経験をもとに子ども虐待やドメスティック・バイオレンス(DV)について解説する。

【実務経験】

担当教員は公認心理師及び臨床心理士の資格を有し、福祉・医療・学校臨床の経験をもつ。大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動にも携わっており、それらの活動をもとにスクールカウンセラーの現状や近隣医療機関との連携について解説する。

到達目標

(1101)
各問題について、十分理解し、心理臨床に役立てることが可能になることを目標とする。

成績評価方法

定期試験及びレポート等により総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)	○	○		○			30
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度		○	○		○		40
プレゼンテーション			○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 臨床心理学の領域及び倫理綱領 【予習】心理臨床に携わる専門家としての倫理について学習しておく(90分)。 【復習】心理臨床家を目指す者としての姿勢を習得する(60分)。	【
2) 臨床心理学の歴史 【予習】臨床心理学の歴史について学習しておく(90分)。 【復習】臨床心理学の歴史について復習する(60分)。	プレゼンテーション
3) 臨床心理学と資格制度 【予習】資料に目を通し、疑問点や必要な知識を明確にする(60分)。 【復習】資格制度について復習する(60分)。	プレゼンテーション
4) 臨床心理学的援助論 【予習】資料に目を通し、疑問点や必要な知識を明確にする(60分)。 【復習】授業での学びを通してレポートをまとめる(60分)。	プレゼンテーション
5) 臨床心理学的援助論 【予習】資料に目を通し、疑問点や必要な知識を明確にする(60分)。 【復習】心理臨床家を目指す者としての姿勢を習得する(60分)。	プレゼンテーション
6) 多職種連携及びケースマネジメント並びに自助グループについて 【予習】医療機関における専門職の役割について学習しておく(90分)。 【復習】専門職としてのチームによる支援の在り方を習得する(60分)。	グループワーク
7) 児童福祉領域における心理職の役割と責任 【予習】資料に目を通し、疑問点や必要な知識を明確にする(60分)。 【復習】児童福祉法を調べる(60分)。	グループワーク
8) 被害者支援を通して考える心理職の役割と責任 【予習】資料に目を通し、疑問点や必要な知識を明確にする(60分)。 【復習】関連法律を調べる(60分)。	グループワーク
9) 社会的養護施設と心理臨床 【予習】心理臨床に携わる専門家としての倫理について学習しておく(90分)。 【復習】心理臨床家を目指す者としての姿勢を習得する(60分)。	グループワーク
10) 生活臨床と生活場面面接 【予習】心理臨床に携わる専門家としての倫理について学習しておく(90分)。 【復習】心理臨床家を目指す者としての姿勢を習得する(60分)。	プレゼンテーション
11) ストーカー加害者と心理職の役割と責任 【予習】心理臨床に携わる専門家としての倫理について学習しておく(90分)。 【復習】心理臨床家を目指す者としての姿勢を習得する(60分)。	プレゼンテーション
12) 電話相談・SNS相談における留意点と面接との違い 【予習】心理臨床に携わる専門家としての倫理について学習しておく(90分)。 【復習】心理臨床家を目指す者としての姿勢を習得する(60分)。	プレゼンテーション
13) 教育領域におけるスクールカウンセラーの役割と業務 【予習】心理臨床に携わる専門家としての倫理について学習しておく(90分)。 【復習】心理臨床家を目指す者としての姿勢を習得する(60分)。	プレゼンテーション
14) ストレスチェックと産業領域における心理職の役割と責任 【予習】心理臨床に携わる専門家としての倫理について学習しておく(90分)。 【復習】心理臨床家を目指す者としての姿勢を習得する(60分)。	プレゼンテーション
15) まとめ	プレゼンテーション
授業外学習	
心理臨床に関する文献、精神医学等の専門書において学習を重ねていくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
臨床心理学全書 1 臨床心理学原論 大塚義孝（編） 誠信書房2004	臨床心理学特論 はじめ、心理臨床に関する全科目

課題に対するフィードバック

必要に応じて適宜フィードバックを行う。講義前後で質疑応答の時間を設ける。

備考

科目名	臨床心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	高田 晃	関連する資格	臨床心理士受験資格	

授業概要

臨床心理士の行う心理的支援について、歴史的、対象、具体的な活動（心理アセスメント、心理面接、心理的地域援助、臨床心理学的調査研究）について理解を深める。

臨床心理学的活動を行う際の倫理の問題について理解を深める。

決められた担当箇所についてまとめてレジュメを作成、それを基にプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションをする。

実務経験

公認心理師、及び臨床心理士の資格を有し、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、スクールカウンセラーや産業カウンセラーなどの臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行う。

到達目標

(1102)

臨床心理学の基本的活動である（心理アセスメント、心理面接、心理的地域援助、臨床心理学的調査研究）を理解する。

臨床心理学における倫理の問題について理解する。

成績評価方法

授業態度、授業参加度

毎回のミニレポート

全ての授業を終了後、テーマを設定したレポート。"

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							25
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 臨床心理学の成立と定義（APA, 日本の実情） 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
2) 臨床心理学の独自性（対象、実践の学、心理査定、面接、地域援助、研究調査）【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
3) 臨床心理学の歴史的側面からの理解（諸外国） 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
4) 日本の臨床心理学の歴史 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
5) 臨床心理士資格の誕生と展開 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
6) 臨床心理士の現状と今後の課題 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
7) 臨床心理学の対象（活動領域、クライアント） 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
8) 臨床心理学の対象（治療教育と予防の統合） 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
9) 臨床心理学の対象（取り扱う心の問題） 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
10) 臨床心理学の援助論（心理的援助の内容） 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
11) 臨床心理学の援助論（心理的援助の方法） 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
12) 臨床心理学の援助論（心理的援助の学び方） 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
13) 臨床心理学における倫理問題（職業的倫理の特性） 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
14) 臨床心理学における倫理問題（実際の活動場面での倫理的トラブル） 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
15) 臨床心理学における倫理問題（日本臨床心理士会倫理規定） 【予習】参考図書の該当する章を熟読しておく（45分） 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する（45分）	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
授業外学習	
発表者は担当単元のレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。 次回授業の単元を熟読し、ディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
臨床心理学原論、大塚義孝編 誠信書房	臨床心理に関連するあらゆる科目、特に 臨床心理面接特論、臨床心理学特論

課題に対するフィードバック

授業中の疑問や気づき、及び感想などの小レポートについて、修正や再度の説明が必要な個所について次回の授業で口頭で説明する。

備考

オフィスパワー：木曜日・金曜日の昼休み時間

科目名	心理学研究法特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	森本 裕子	関連する資格	臨床心理士	

授業概要

心理学が取り扱う心や行動のメカニズムは、目に見える仕方では直接調べることができないため、研究対象に接近するための様々な工夫が凝らされてきた。心や行動を取り扱う研究法と、得られたデータを分析する量的・質的アプローチを習得することは、修士論文の執筆だけでなく、科学者としての側面を兼ね備える心理的援助者となるためにも必要である。本講義では心理学的研究法についての知識を身につけるだけでなく、心理学的研究の原理や方法について批判的に捉え直す。これにより、科学的知識の生成過程における推論や仮説構築の本質、先行研究からの問いの発見など、学問分野を超えた科学の営みや、科学的思考そのものについての理解を深めることを目指す。

到達目標

(1103)
 データに基づいて実証的、批判的に考えることができる。
 心理学的視点の有用性や限界について説明できる。
 自らの研究課題に沿って、有用な知見を生み出す研究法について複眼的に考えることができる。
 自らの研究課題に沿って、得られたデータを分析する複数の方法を理解し、それぞれの長所や短所を説明できる。
 心理学研究において遵守すべき倫理規定を理解し、自らの臨床実践並びに研究活動において実践することができる。

成績評価方法

授業時間内課題、授業時間外学習課題、授業態度・授業参加度、演習により総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							60
宿題、授業外レポート			○				20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 心理学とは、研究とはなにか 【予習】事前配布資料を読んでおく（60分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
2) 量的研究と質的研究、構成概念 【予習】事前資料と他の受講者の記述を読み、意見を形成する（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
3) 妥当性と信頼性・相関と因果・独立変数と従属変数 【予習】事前資料と他の受講者の記述を読み、意見を形成する（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
4) 研究方法の選択：実験法（1） 【予習】事前資料と他の受講者の記述を読み、意見を形成する（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
5) 研究方法の選択：実験法（2） 【予習】事前資料と他の受講者の記述を読み、意見を形成する（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
6) 研究方法の選択：調査法（1） 【予習】事前資料と他の受講者の記述を読み、意見を形成する（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
7) 研究方法の選択：調査法（2） 【予習】事前資料と他の受講者の記述を読み、意見を形成する（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
8) 研究方法の選択：観察法 【予習】事前資料と他の受講者の記述を読み、意見を形成する（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
9) 研究方法の選択：面接法 【予習】事前資料と他の受講者の記述を読み、意見を形成する（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
10) 研究方法の選択：検査法 【予習】事前資料と他の受講者の記述を読み、意見を形成する（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
11) 研究方法の選択：介入法 【予習】事前資料と他の受講者の記述を読み、意見を形成する（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
12) 得られたデータの扱い方 【予習】事前資料と他の受講者の記述を読み、意見を形成する（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
13) リサーチクエスション 【予習】事前資料と他の受講者の記述を読み、意見を形成する（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
14) 先行研究の探し方 【予習】事前資料と他の受講者の記述を読み、意見を形成する（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
15) まとめと振り返り 【予習】事前資料を読む（90分） 【復習】復習課題を作成し、他の受講者と共有する（90分）	演習、振り返り小レポート
授業外学習	
心理学研究法に関する各回のテーマに沿って、自分の修士論文での研究課題を再考し、他の受講者と共有すること。他の受講者の記述を読み、自分の研究計画を再考すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：講義資料を配付する	心理統計法演習

課題に対するフィードバック

課題の内容について、各回でフィードバックするとともに、質問があれば解説する。

備考

科目名	心理統計法特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	森本 裕子	関連する資格	臨床心理士	

授業概要

心理学における量的・質的データの統計処理について、フリーソフトウェアHADを用いて実践的に学ぶ。学部で「心理学統計法」や統計学関連の科目を履修してきているものとして授業を進める。

到達目標

(1104)
 心理学の論文の中で用いられている統計処理を適切に理解できる
 測定データの尺度水準に応じて適切な統計処理を行うことができる
 得られたデータの分析において、適切な統計パッケージを選択し処理できる

成績評価方法

演習への取組み姿勢，授業時間内演習課題（小テスト）と授業時間外課題（宿題）への解答を総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							40
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 【予習】手持ちの統計関連の教科書や資料を読み返しておく（90分） 【復習】修士論文のテーマに関連する論文を2本程度探しておく（90分）	
2) 基礎統計 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	演習
3) データの標準化とz検定 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	演習
4) グループ平均を用いたz検定と相関係数 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	演習
5) ノンパラメトリック相関・偏相関 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	演習
6) クロス表とカイ2乗検定 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	演習
7) t検定（1） 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	演習
8) t検定（2） 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	演習
9) 1要因の分散分析 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	演習
10) 2要因の分散分析 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	演習
11) 分析方法の総復習 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	演習
12) 因子分析 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	演習
13) 単回帰分析 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	演習
14) 重回帰分析 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	演習
15) まとめ 【予習】事前配付資料を読んでおく（90分） 【復習】復習課題に解答する（90分）	
授業外学習	
初回を除く授業への予習と、最終回を除く授業の復習。 具体的内容については授業時に指示する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：講義資料を配付する 教科書： 小宮あすか・布井雅人（2024）. Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける 第2版	心理学研究法特論

課題に対するフィードバック

復習課題への解答は、翌週の授業で配布あるいは解説する。

備考

科目名		心の健康教育に関する理論と実践					
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	1年	前期			
担当者名	小山 典子		関連する資格	公認心理師 臨床心理士			
授業概要 授業概要 健康教育の定義 (Geen & Kreuter, 1991) に基づくと、心の健康教育とは、心身の健康の維持・向上につながる自発的な行動を育成するために計画された学習経験の組合せで、ヘルス・プロモーションの柱のひとつである。本講義では、第一に心の健康教育に関する代表的な理論とアプローチについて理解することを目的とする。そして、心の健康教育プログラムを立案・実施し、また参加者として体験することで、心の健康教育に対する理解を深め、実践のスキルを磨くことを第二の目的とする。							
【実務経験】 担当教員は、公認心理師・臨床心理士の資格を有し、病院臨床の経験や大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動にも携わっており、それらの活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行う。							
到達目標 (1301) 心の健康教育に関する理論・モデルを説明することができる。 心の健康教育を実践した先行研究に関するレジュメを作成し、説明することができる。 心の健康教育の理論・モデルに基づいて、プログラムを立案することができる。 立案した心の健康教育プログラムを適切に実施することができる。 心の健康教育プログラムの効果評価を行うことができる。			成績評価方法 授業内レポート20% 授業外レポート30%、 レジュメ発表およびプレゼンテーション50% で評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○	○				40
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 心の健康教育の意義とその領域 【予習】授業で扱う理論について調べ、レジュメにまとめる（90分以上） 【復習】資料を再読し、理論を説明できるようにする（90分以上）	
2) 心の健康教育に関する理論 トランスアクションル・モデル 【予習】授業で扱う理論について調べ、レジュメにまとめる（90分以上） 【復習】資料を再読し、理論を説明できるようにする（90分以上）	グループディスカッション
3) 心の健康教育に関する理論 トランスセオレティカル・モデル（TTM） 【予習】授業で扱う理論について調べ、レジュメにまとめる（90分以上） 【復習】資料を再読し、理論を説明できるようにする（90分以上）	グループディスカッション
4) 心の健康教育に関する理論 セルフ・マネジメントモデル 【予習】授業で扱う理論について調べ、レジュメにまとめる（90分以上） 【復習】資料を再読し、理論を説明できるようにする（90分以上）	グループディスカッション
5) 心の健康教育におけるアプローチ セルフ・コンパッション・トレーニング 【予習】授業で扱う理論・技法を調べ、レジュメにまとめる（90分以上） 【復習】資料を再読し、理論・技法を説明できるようにする（90分以上）	グループディスカッション
6) 心の健康教育におけるアプローチ ストレスとコーピング 【予習】資料で扱う方法について調べ、レジュメにまとめる（90分以上） 【復習】資料を再読し、方法を説明できるようにする（90分以上）	グループディスカッション
7) 心の健康教育におけるアセスメント 【予習】資料で扱う実践方法について調べる（90分以上） 【復習】資料を再読し、実践方法をシミュレーションする（90分以上）	グループディスカッション
8) 心の健康教育の実践例 アサーション・トレーニング 【予習】資料で扱う実践方法について調べる（90分以上） 【復習】資料を再読し、実践方法をシミュレーションする（90分以上）	グループディスカッション
9) 心の健康教育の実践例 ストレス・マネジメント教育 【予習】資料で扱う実践方法について調べる（90分以上） 【復習】資料を再読し、実践方法をシミュレーションする（90分以上）	グループディスカッション
10) 心の健康教育の実践例 抑うつ予防プログラム 【予習】資料で扱う実践方法について調べる（90分以上） 【復習】資料を再読し、実践方法をシミュレーションする（90分以上）	グループディスカッション
11) 心の健康教育の実践例 ソーシャル・スキルズ・トレーニング 【予習】学修した理論とアプローチを整理し、まとめる（90分以上） 【復習】プログラム構成を見直し、方法を具体的に（90分以上）	グループディスカッション
12) 心の健康教育プログラムの立案 【予習】心の健康教育プログラムの大枠を作成する（90分以上） 【復習】立案したプログラムを修正する（90分以上）	グループディスカッション
13) 心の健康教育プログラムの立案 【予習】修正したプログラムをシミュレーションする（90分以上） 【復習】立案したプログラムを、必要に応じて修正する（90分以上 コーピング）	グループディスカッション
14) 立案した心の健康プログラムの発表 【予習】立案したプログラム発表のリハーサルする（90分以上） 【復習】発表したプログラムを、必要に応じて修正する（90分以上）	プレゼンテーション
15) 立案した心の健康プログラムの発表 【予習】立案したプログラム発表のリハーサルする（90分以上） 【復習】これまでの学修内容を系統立てて整理し、まとめる（90分以上）	プレゼンテーション
授業外学習	
すべての受講生が自ら選んだテーマについて調査し、講義内で発表（パワーポイント使用）してもらう。 受講生は発表内容について積極的に質問・討論すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：必要に応じて資料を配布する。 参考書：健康心理学概論，日本健康心理学学会編，実務教育出版 健康の心理学 心と身体の健康のために，春木豊他共著，サイエンス社 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎，松本，医歯薬出版株式会社	産業・労働分野に関する理論と支援の展開

課題に対するフィードバック

授業内レポート・プレゼンテーションについては、必要に応じて個別にコメントする。

備考

科目名	乳幼児心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	太田 列子	関連する資格	臨床心理士、公認心理師	

授業概要

本講義は対面で行う。

本講義では、乳幼児期の情緒発達、認知発達、社会性発達、道徳性発達について、主な理論や論文を紹介し、乳幼児の心理について理解を深める。乳幼児の対人世界を理解し、その心理的発達や、重要な他者・養育者である親との相互作用について学ぶ。また、乳幼児の心理的問題や発達上の課題に対する理解と、「遊び」の治療的機能について学習することで、乳幼児と養育者にとって必要な支援の在り方を修得ことを目的とする。

近年、乳幼児の発達や精神世界の解明は急速に発展しており、一方で、養育者の幼い頃の両親との関係性が、養育者と乳幼児との関係において再演されることが、臨床場面ではしばしば観察されている。この乳幼児期の苦痛と非適応的な関係性パターンの世代間伝達について理解することで、虐待や発達障害といった近年の課題を早期に発見し予防する技法を身につける。

実務経験

担当教員は臨床心理士及び公認心理師の資格を有しており、精神科病院ならびに小児科クリニック心理士、乳幼児健康診査嘱託心理士、5歳児発達相談会相談員、要保護児童対策地域協議会委員等の実務経験をもとに、乳幼児の心理について授業を行う。

到達目標

1201

1. 乳幼児期の発達段階ならびに発達課題を理解する。
2. 乳幼児の対人世界を理解し、心理的発達と発達課題について知る。
3. 母子相互作用における親役割の重要性を認識する。
4. 乳幼児と養育者への適切な心理的援助方法を修得する。
5. 「遊び」の治療的機能について学ぶ。

成績評価方法

レポート課題（50%）、小レポート（10%）、宿題（10%）、授業態度（10%）、プレゼンテーション（10%）、グループワーク（10%）

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							60
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 乳幼児の心理発達と成長：ライフサイクルにおける乳幼児期について概観する。 【復習】小レポート作成（30分）	授業外レポート課題
2) 情緒発達と認知発達：乳幼児の情緒発達，概念発達，知能の発達，思考の発達について学習する。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	インタラクティブ・インストラクション
3) 愛着の形成と発達：愛着のタイプや測定法を学ぶ。また，乳幼児期にみられる愛着のタイプが後の対人関係形成にどのような影響を及ぼすかを理解する。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	インタラクティブ・インストラクション
4) 親子関係と発達：父性と母性、親の養育態度にはどのようなタイプがあるかを理解し，それらが子どもの社会的発達にどのような影響を与えるかについて学習する。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	インタラクティブ・インストラクション
5) 仲間関係と発達：友だち概念や発達段階を知る。さらに愛他行動，向社会的行動，攻撃性という視点から仲間関係の在り方を考える。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	インタラクティブ・インストラクション
6) 遊びの発達：遊びの種類および発達段階を学習する。また，遊び場面における対人葛藤やその解決方略を知り，介入の在り方を考える。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	インタラクティブ・インストラクション
7) 発達課題と発達障害：乳幼児の心理的問題や発達上の問題・障害と心理査定法について学習する。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	think-pair-share、リフレクションカード
8) 発達課題と発達障害：乳幼児の心理的問題や発達上の問題・障害と心理査定法について学習する。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】小レポート作成（30分）	think-pair-share、リフレクションカード
9) 遊びの治療的機能：子どもに対する心理療法としての遊び。（遊戯療法） 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】グループワークの感想を小レポートにまとめる（60分）	グループワーク、プレゼンテーション、小レポート
10) 遊びの治療的機能：子どもに対する心理療法としての遊び。（遊戯療法） 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】グループワークの感想を小レポートにまとめる（60分）	グループワーク、プレゼンテーション、小レポート
11) 遊びの治療的機能：子どもに対する心理療法としての遊び。（遊戯療法） 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】グループワークの感想を小レポートにまとめる（60分）	グループワーク、プレゼンテーション、小レポート
12) 事例研究：事例をもとに，乳幼児期の心理的課題についての理解を深める。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】ディスカッションの内容を小レポートにまとめる。（60分）	ディスカッション、リフレクションカード
13) 事例研究：事例をもとに，母子相互作用に関する理解を深める。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】ディスカッションの内容を小レポートにまとめる。（60分）	ディスカッション、リフレクションカード
14) 事例研究：事例をもとに，親-乳幼児心理療法に関する理解を深める。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】ディスカッションの内容を小レポートにまとめる。（60分）	ディスカッション、リフレクションカード
15) まとめ：これまでの学習を振り返り，本講義での学びに付いて整理する。 【予習】配布資料を読み理解する（30分）【復習】これまでの学びについて小レポートにまとめる（60分）	課題レポート、リフレクションカード
授業外学習	
<p>授業計画に沿って，事前に配布資料を熟読してくること。 授業毎にリフレクションカードと小レポートを提出すること。 レポート課題について，資料をもとにレポート（A4，3～4枚）を作成し、授業最終日に提出すること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>適宜プリントを配布する。 参考書：「乳幼児精神保健の基礎と実践」青木豊・松本英夫 岩崎学術出版社、「親-乳幼児心理療法」D.N.スターン著 馬場禮子・青木紀久代訳 岩崎学術出版社、「乳児の対人世界（理論編・臨床編）」D.N.スターン著 小此木啓吾他訳 岩崎学術出版社</p>	発達心理学特論、プレイセラピー演習

課題に対するフィードバック

授業中の小レポートおよびリフレクションカードの記載事項については、次回の授業時にコメントする。

備考

授業に際しては、講義だけでなく、ビデオ視聴やグループワーク等により、視覚的・感覚的にも理解を深める。

科目名	発達心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	木元 卓也、三島 瑞穂	関連する資格	公認心理師、臨床心理士	

授業概要

発達とは、生涯にわたって質的・量的に変化していく過程として捉えられる。また、それぞれの発達段階には、達成すべき課題があり、この課題の達成をめくり、様々な問題が生じることがある。本講では、各発達段階に現れる問題について検討しながら、各発達段階の基本的知識と支援のあり方について概観する。

【実務経験】

担当教員は公認心理師及び臨床心理士の資格を有し、福祉・医療・学校臨床の経験をもつ。大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動にも携わっており、それらの活動をもとに児童福祉領域における被虐待児の発達について解説する。

到達目標

- (1202)
1. 様々な視点から、各発達段階の特性が理解できる。
 2. 各発達段階に現れる問題に様々な視点をふまえて、理解することができる。
 3. 各発達段階に現れる問題につき、様々な視点を踏まえて、支援のあり方がイメージできる。

成績評価方法

定期試験、受講態度・プレゼンテーションで評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							20
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ガイダンス、生涯発達心理学とは(木元) 予習)生涯発達心理学について本を読む(30分) 復習)レポートをまとめる(30分)	授業内レポート
2) 社会的養護施設における発達支援の対象(木元) 予習)社会的養護施設について調べる(30分) 復習)虐待についてレポートをまとめる(30分)	グループワーク
3) 乳児期の理解と支援(三島) 予習)事例プリントを熟読する(30分) 復習)施設と事例についてまとめる(30分)	グループワーク
4) 幼児期前期の理解と支援(三島) 予習)事例プリントを熟読する(30分) 復習)施設と事例についてまとめる(30分)	グループワーク
5) 幼児期後期の理解と支援(三島) 予習)事例プリントを熟読する(30分) 復習)施設と事例についてまとめる(30分)	グループワーク
6) 児童期の理解と支援(三島) 予習)事例プリントを熟読する(30分) 復習)施設と事例についてまとめる(30分)	グループワーク
7) 思春期の理解と支援(三島) 予習)事例プリントを熟読する(30分) 復習)施設と事例についてまとめる(30分)	グループワーク
8) 青年期の理解と支援(木元) 予習)事例プリントを熟読する(30分) 復習)社会資源と事例についてまとめる(30分)	グループワーク
9) 成人期の理解と支援(木元) 予習)事例プリントを熟読する(30分) 復習)社会資源と事例についてまとめる(30分)	グループワーク
10) 離婚とひとり親家庭の理解と支援(木元) 予習)事例プリントを熟読する(30分) 復習)法律と社会資源・施設についてまとめる(30分)	グループワーク
11) 発達障害の理解と支援 (木元) 予習)発達障害について本を読む(30分) 復習)レポートをまとめる(30分)	グループワーク
12) 発達障害の理解と支援 (木元) 予習)発達障害の診断についてまとめる(30分) 復習)レポートをまとめる(30分)	グループワーク
13) 発達障害の理解と支援 (木元) 予習)発達障害の治療についてまとめる(30分) 復習)レポートをまとめる(30分)	グループワーク
14) 発達障害の理解と支援 (木元) 予習)S S Tについてまとめる(30分) 復習)レポートをまとめる(30分)	グループワーク
15) まとめ(木元) 予習)発達段階についてまとめる(30分) 復習)レポートをまとめる(30分)	グループワーク
授業外学習	
本講で概観した知識、グループワークでの検討結果などを元にして、自分なりの理解と支援イメージをまとめておいて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要によりレジユメを配布する。	他の心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

次の授業のときまでにフィードバックを行います。

備考

科目名	産業・労働分野に関する理論と支援の展開			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	高田 晃	関連する資格	公認心理師 臨床心理士	

授業概要

産業・組織心理学の中でも、特に産業活動の効率化を目指す。人間関係やコミュニケーション、仕事に対するモチベーション、職場のメンタルヘルスに関する内容を扱う。

特に厚生労働省の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」をもとに1次予防、2次予防、3次予防について理解していく。

決められた担当箇所についてまとめてレジユメを作成、それを基にプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションをする。

実務経験

担当教員（高田晃）は公認心理師・臨床心理士であり、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、特にこの授業では産業カウンセラーとしての活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行う。

到達目標

(1302)

組織で働く人々の心や行動の特徴を説明できる。

現代の産業が抱える課題を知り、心理学がその課題に対してどのように貢献できるか討議できる。

職業性ストレスモデルについて説明できる。

成績評価方法

授業態度、授業参加度

毎回のミニレポート

全ての授業を終了後、テーマを設定したレポート。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○		○		20
宿題、授業外レポート	○	○	○		○		30
授業態度・授業参加度		○	○		○		25
プレゼンテーション	○	○	○		○		25
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 産業・組織心理学とは 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
2) 産業・組織心理学が扱うテーマ 組織行動、人事、安全衛生、消費者行動 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
3) 労働者の心の健康保持増進のための指針 電通事件、安全配慮義務 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
4) メンタルヘルスのための4つのケア 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
5) 職業性ストレスモデルの理解 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
6) 心の健康とストレス 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
7) ストレッサー（職場の3大ストレス） 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
8) 仕事の要求度とコントロールモデル 努力-報酬不均衡モデル 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
9) 個人要因の問題 タイプA・B・C、認知のゆがみ 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
10) 緩衝要因、人間関係とストレス、 ソーシャルスキル、ソーシャルサポート 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
11) ストレス反応とメンタルヘルス不調 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
12) 問題解決とラインケア 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
13) ハラスメント問題（セクハラ、パワハラ等） 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
14) 1次予防、2次予防、3次予防（リワーク支援） 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
15) 産業・組織心理学の領域での支援活動 授業テーマについてディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。授業中分からなかった専門語彙等を調べ直し正しく理解する。(60分)	プレゼンテーション、ディスカッション、授業内レポート
授業外学習	
発表者は担当単元のレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。 発表者以外の者は次回授業の単元を熟読し、ディスカッションできるように自分の意見をまとめて授業に参加する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
職場における心の健康づくり、厚生労働省	社会心理学特論・健康心理学特論

課題に対するフィードバック

授業中の疑問や気づき、及び感想などの小レポートについて、修正や再度の説明が必要な個所について次回の授業で口頭で説明する。

備考

オフィスパワー：木曜日・金曜日の昼休み時間

科目名	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	秋元 隆志	関連する資格	公認心理師受験資格 臨床心理士受験資格	

授業概要

精神医学は科学的進歩が目覚ましい領域ですが、対人援助の仕事でもあり、臨床心理学的視点が不可欠です。この授業では、精神医学の現在の状況を概観し理解するとともに、この領域での心理士に対する要請がどのようなものであるかを考え、必要な知識を習得します。

到達目標

1303
精神医学における、心理師を取り巻く現在の状況を理解する。各疾病に対する知識を深めるとともに、チーム医療サイドと患者サイドからの、心理師への要請を考察する。

成績評価方法

授業内レポート、定期試験、及び授業外レポート等により総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 精神医学の成り立ちと歴史	
2) 精神科症状学と精神科診断学 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
3) 精神薬理学 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
4) 統合失調症 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
5) 統合失調症 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
6) 精神療法総論 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
7) 気分障害 うつ病 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
8) 気分障害 双極性障害 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
9) 神経症の病理と治療 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
10) 神経症の病理と治療 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
11) パーソナリティ障害 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
12) 依存、摂食障害 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
13) 痛み、緩和ケア、周産期医学 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
14) 認知症、てんかん、睡眠障害 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
15) 小児精神医学 【復習】配布された資料を復習する（20分）。	授業冒頭で、前回の授業内容について2人程度に疑問点を提出してもらい、それを検討する。
授業外学習	
心身医学、精神医学等の専門書において学習を深めておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
参考書：DSM-5-TR 精神疾患の分類と診断の手引、医学書院	

課題に対するフィードバック

授業内レポートは、提出後の授業で、随時コメントしていく。

備考

科目名	看護臨床心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	小山 典子	関連する資格		

授業概要

ヒューマン・ケアの現場では、患者の痛み・苦しみを聴くだけでなく、その人の人生そのものに歴史に触れることになる。すなわち、専門知識・技術に加えて、患者の社会・文化的背景を傾聴し、豊かな感情交流の能力が求められる。

患者・高齢者や家族、子どもの心理を理解し感情交流の質を上げるために必要な心理臨床を事例など用いて学ぶ。

到達目標

(1203)
ケアされる側の社会・文化的背景を理解する。
看護臨床における対人援助職に求められるニーズを把握し、必要な心理的支援を説明できる。

成績評価方法

発表資料準備・プレゼンテーション
グループワーク
以上の総合評価とする。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○						30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		40
グループワーク	○	○	○	○	○		30
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 病気像について 【復習】授業内容について復習する（60分）	
2) 病院臨床における患者の心理 【予習】病気像について各自考察する（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	
3) 病院臨床におけるナラティブアプローチ 【予習】各自選んだ文献をもとに発表の準備を行う（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	グループディスカッション
4) 終末期患者の心理学 【予習】各自選んだ文献をもとに発表の準備を行う（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	グループディスカッション
5) 心身医学的アプローチ 【予習】各自選んだ文献をもとに発表の準備を行う（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	学生によるプレゼンテーション グループディスカッション
6) 心身医学的アプローチ 【予習】各自選んだ文献をもとに発表の準備を行う（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	学生によるプレゼンテーション グループディスカッション
7) 心身医学的アプローチ 【予習】各自選んだ文献をもとに発表の準備を行う（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	学生によるプレゼンテーション グループディスカッション
8) 心身医学的アプローチ 【予習】各自選んだ文献をもとに発表の準備を行う（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	学生によるプレゼンテーション グループディスカッション
9) 心身医学的アプローチ 【予習】各自選んだ文献をもとに発表の準備を行う（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	学生によるプレゼンテーション グループディスカッション
10) 心身医学的アプローチ 【予習】各自選んだ文献をもとに発表の準備を行う（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	学生によるプレゼンテーション グループディスカッション
11) 心身医学的アプローチ 【予習】各自選んだ文献をもとに発表の準備を行う（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	学生によるプレゼンテーション グループディスカッション
12) 心身医学的アプローチ 【予習】各自選んだ文献をもとに発表の準備を行う（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	学生によるプレゼンテーション グループディスカッション
13) 児童・思春期心身症の看護と心理臨床 【予習】各自選んだ文献をもとに発表の準備を行う（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	グループディスカッション
14) 慢性疾患の看護とカウンセリング 【復習】授業内容について復習する（60分）	グループディスカッション
15) 総括 病院臨床関連映画視聴	
授業外学習	
地域社会の情報から特に医療・看護における心理学的なアプローチが必要と思われるエピソードについて日ごろから考察する。各受講生が自ら選んだ研究論文を理解しまとめ考察する。その内容の資料（パワーポイント可）を作成し発表する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：必要に応じて資料を配布する。</p> <p>参考書： 人間理解の心理学 こころの物語のよみ方，岡堂哲雄 監修，新曜社 心理臨床的支援の方法 カウンセリングのすすめ，菅佐和子 編，新曜社</p>	<p>患者論 保健医療分野に関する理論と支援の展開</p>

課題に対するフィードバック

プレゼンテーション後のレポートにコメントつけて返却する。

備考

科目名	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	梶本 俊哉	関連する資格	公認心理師 臨床心理士	

授業概要

この講義では教育分野、特にスクールカウンセリングにおける心理臨床の実践について、基本的な知識を修得し、実践のための配慮や方法について、現場でのアセスメントをもとに考えることができるようになることを目的とする。

このため、スクールカウンセリングにおいてよく相談のテーマとなる不登校、いじめ、問題行動、発達などの多様なテーマについて講義する。さらに模擬的な事例を提示し、事例におけるアセスメントと支援について履修生が具体的に考え、意見を共有して多様な支援の在り方についても理解を深める。

実務経験

担当教員は公認心理師・臨床心理士であり、山口県スクールカウンセラーとしての勤務経験のほか、国内の複数の自然災害において災害派遣スクールカウンセラーとしての勤務経験も有している。本講義においては、これらの実践事例をもとに実際の支援と配慮について受講生とともに考える。

到達目標

(2301)
教育現場、特にスクールカウンセリングにおける心理臨床の実践内容について理解し、説明できる。
援助的な関係を築くための援助者の態度について理解し、実践できる。
スクールカウンセリングに関連する法規について理解し、実践に活用することができる。
スクールカウンセリングに関連するプライバシーや倫理的配慮について理解し、実践できる。
不登校、いじめ、問題行動、発達などのテーマについて理解し、アセスメントと支援を実践することができる。
心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援について考え、実践することができる。
児童生徒、保護者、あるいは学校教員向けの心理教育を計画し、実施することができる。

成績評価方法

定期試験の評価に加え、講義中に提示したテーマや事例に関する検討内容等のプレゼンテーションの評価を加味して、総合的に評価する。
なお、出席回数が規定回数を満たしていない場合、レポートの提出がない場合には単位認定しない。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション	○	○	○		○		20
グループワーク							
演習							20
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 模擬事例で考えるスクールカウンセリング 求められる心理サービス 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
2) 模擬事例で考えるスクールカウンセリング 主訴・見立て・方針 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
3) 模擬事例で考えるスクールカウンセリング 心理療法の適用と工夫 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
4) 模擬事例で考えるスクールカウンセリング 信頼関係 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
5) 模擬事例で考えるスクールカウンセリング クライエントの体験 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
6) スクールカウンセリングにおける守秘義務・関連法規と倫理 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
7) スクールカウンセリングにおける守秘義務・関連法規と倫理 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
8) スクールカウンセリングの実際問題 不登校 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
9) スクールカウンセリングの実際問題 いじめ・問題行動 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
10) スクールカウンセリングの実際問題 被害者支援 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
11) スクールカウンセリングの実際問題 緊急支援・災害支援 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
12) スクールカウンセリングの実際問題 自傷行為・自死予防 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
13) スクールカウンセリングの実際問題 発達・合理的配慮 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
14) 学校組織・関係機関との連携 【復習】講義内容の復習（60分）	演習・グループワーク
15) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援と心理教育 【復習】講義内容の復習・心理教育教材の作成（300分）	演習・グループワーク
授業外学習	
講義で学んだ教育領域における心理臨床の実践に関する内容の復習に加え、適宜レポートを課す。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用せず、適宜資料を配布する。 （参考図書）藤原和政・谷口弘一 [編著] (2020) 学校現場で役立つ教育相談・北大路書房	心理臨床に関連するあらゆる科目

課題に対するフィードバック

レポートや質問に関するコメントは個別に、あるいは内容により履修生全体に共有する形式にてフィードバックする。

備考

科目名	家族臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	小川 昭	関連する資格	公認心理師受験資格 臨床心理士受験資格	

授業概要

【対面授業】

家族とは何かを問い、家族成立のための構成要素を検討するとともに、家族関係の中で起こる様々な問題を推測する。その家族問題に対する心理的援助法の概略を理解する。地域社会における家族等への支援について理解を深め、集団的な心理支援や個別のケースにかかわる心理支援を理解する。グループワークや演習を通じて、心理支援者としての感性を身につける。スクールカウンセラーでの相談経験と、精神科病院での経験、児童養護施設での経験、民間のDV被害者支援センターとの関りの中での知見をもとに『家族』について体験的な学びを提供する。

到達目標

2302

1. 様々な家族形態があることを理解し、自らの価値観を押し付けることなく家族への心理支援が実践できる。
2. 様々な家族問題に対し、各構成員の立場に立った見方に配慮し、具体的な支援方法をイメージし実践できる。
3. 家族関係が起因した様々な問題を、集団や地域社会における支援において心理的な支援の役割を理解し実践できる。

成績評価方法

レポート、演習、受講態度で評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							20
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 個人と家族、集団、社会について 【予習】個人・集団(家族)・社会に広がる関係を考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	グループワーク
2) 家族の構成要素と役割 【予習】家族の構成員について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	グループワーク
3) 家族の変遷 【予習】家族の変遷について調べてくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	グループワーク
4) グループアプローチの意義や種類 【予習】集団療法について調べてくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	グループワーク
5) 機能不全家族で育った人への心理支援 自助グループにおける心理支援 【予習】アダルトチルドレンについて調べてくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	グループワーク
6) 家族療法(1) 家族療法の基礎 【予習】家族療法について調べてくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	グループワーク
7) 家族療法(2) システムズアプローチ 【予習】システムズアプローチの理論について理解してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	グループワーク
8) 家族問題への心理支援の実践(1) 【予習】家族の問題について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	演習
9) 家族問題への心理支援の実践(2) 【予習】家族の問題について考察してくる(30分) 【復習】家族の関係性(家族力動)について振り返り整理する(30分)	演習
10) 家族問題への心理支援の実践(3) 【予習】家族の問題について考察してくる(30分) 【復習】家族の関係性(家族力動)について振り返り整理する(30分)	演習
11) 家族問題への心理支援の実践(4) 【予習】家族の問題について考察してくる(30分) 【復習】家族の関係性(家族力動)について振り返り整理する(30分)	演習
12) 家族問題への心理支援の実践(5) 【予習】家族の問題について考察してくる(30分) 【復習】家族の関係性(家族力動)について振り返り整理する(30分)	演習
13) 家族関係の問題(虐待・DV等) 【予習】虐待・DVについて理解してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	グループワーク
14) 家族関係の問題(虐待・DV等)への地域社会における心理支援 【予習】個人・家族・社会へと広がる関係について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	グループワーク
15) 家族関係・集団・地域社会における心理支援とは(まとめ) 【予習】これまで学んだものを整理してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	グループワーク
授業外学習	
本講で概観した知識、グループワークでの検討結果などを元にして、自分なりの理解と支援イメージをまとめておいて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 必要に応じて資料を配布する。 【参考書】 家族臨床心理学の基礎 北樹出版	心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

授業の初めに、前回の授業のフィードバックを行う。

備考

オフィスパワー；講義終了後、質問を受け付ける。

科目名	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	周布 恭子、受田 恵理	関連する資格	臨床心理士 公認心理師	

授業概要

非行・犯罪分野の実状や支援について理解するために、各種制度や理論を習得するとともに、犯罪被害についての基本的知識を理解する。また、矯正施設で行われている取組を知り、犯罪を犯した人に対する支援について具体的な方法を検討する。さらに、司法臨床の事例をもとに、どのように対応をするかを具体的に検討する。

講義担当（周布恭子）は、司法・犯罪分野の実務経験をもとに、司法臨床における支援の対象に関する基礎理論 から、様々な事犯の特徴 性非行と女子非行・ 暴力非行・暴走族・ いじめと児童虐待、矯正処遇における心理臨床 精神分析学・ 家族療法・ 援助技法、修復的司法・まとめについて授業を行う。

講義担当（受田恵理）は、司法・犯罪分野の実務経験をもとに、様々な事犯の特徴 万引き・ 薬物非行、矯正処遇における心理臨床 認知行動療法・ 非行カウンセリング・ 援助技法の実際、について授業を行う。

講義担当者は、臨床心理士・公認心理師を有しており、現場での非行・犯罪分野で臨床を実践していることから、理論とともに臨床技法を現場においてどのように活用していくかといった実践を軸にした講義展開を重視しながら働き掛けを行う。

到達目標

2303

1. 司法・犯罪に関する法律や処遇を理解し、説明できる。
2. 司法分野の実状を理解し、支援に関する理論を認識し、説明できる。
3. 司法分野に対する支援の在り方について検討し、考察できる。
4. 司法分野の事例を踏まえ、対応の仕方を具体的に検討できる。

成績評価方法

出席状況、レポート課題、受講態度・意欲で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 司法臨床における支援の対象に関する基礎理論 【周布】 ・ガイダンス・犯罪臨床心理学概論（70分） ・【復習】本単元の内容の理解度を確認しながら復習をする（20分）	ディスカッション
2) 司法分野に関する基礎理論 【周布】 ・犯罪の実状を理解する（70分） ・【復習】本単元の内容の要点を復習する（20分）	グループディスカッション
3) 司法臨床に関する基礎理論 【周布】 ・制度と法律について理解する（50分） ・【復習】本単元の要点を復習・グループディスカッション（40分）	グループディスカッション 授業内レポート
4) 様々な事犯の特徴 万引き【受田】 ・万引き事犯の実状や特徴、支援について理解する（50分） ・【復習】本単元の要点を復習・グループディスカッション（40分）	事例検討 グループディスカッション 授業内レポート
5) 様々な事犯の特徴 薬物非行【受田】 ・薬物非行の実状や特徴・支援について理解する（50分） ・【復習】本単元の要点を復習・グループディスカッション（40分）	事例検討 グループディスカッション 授業内レポート
6) 様々な事犯の特徴 性非行と女子非行【周布】 ・性非行と女子非行の実状や特徴・支援について理解する（50分） ・【復習】本単元の要点を復習・グループディスカッション（40分）	事例検討 グループディスカッション 授業内レポート
7) 様々な事犯の特徴 暴力非行・暴走族【周布】 ・暴力犯罪の理論と実際について理解する（50分） ・【復習】本単元の要点を復習・グループディスカッション（40分）	事例検討 グループディスカッション 授業内レポート
8) 様々な事犯の実際 いじめと児童虐待【周布】 ・いじめと児童虐待の実態について認識する（50分） ・【復習】本単元の要点を復習・グループディスカッション（40分）	グループディスカッション 授業内レポート
9) 矯正処遇における心理臨床 認知行動療法【受田】 ・司法分野における認知行動療法について理解する（50分） ・【復習】本単元の要点を復習・グループディスカッション（40分）	グループディスカッション 授業内レポート
10) 矯正処遇における心理臨床 精神分析学【周布】 ・司法分野における精神分析学について理解する（50分） ・【復習】本単元の要点を復習・グループディスカッション（40分）	事例検討 グループディスカッション 授業内レポート
11) 矯正処遇における心理臨床 家族療法【周布】 ・司法分野における家族療法について理解する（50分） ・【復習】本単元の要点を復習・グループディスカッション（40分）	事例検討 グループディスカッション 授業内レポート
12) 矯正処遇における心理臨床 非行カウンセリング【受田】 ・司法臨床における論文・事例を提示・意見交換（40分） ・【復習】本単元を振り返り、自分なりの支援について検討（50分）	事例検討 グループディスカッション 授業内レポート
13) 矯正処遇における心理臨床 【受田】 ・援助技法の実際（ロールレタリングを用いた対応）を理解（50分） ・【復習】本単元の内容の要点確認・支援策を検討（40分）	事例検討 グループディスカッション 授業内レポート
14) 矯正処遇における心理臨床 【周布】 ・援助技法（マインドフルネス・フォーカシング）を理解（50分） ・【復習】本単元の内容の要点確認・支援策を検討（40分）	事例検討 グループディスカッション 授業内レポート
15) 修復的司法・まとめ【周布】 ・これまでの単元内容の復習し、修復的司法を理解する（50分） ・【復習】事例検討・グループディスカッション（40分）	グループディスカッション 授業内レポート
授業外学習	
本講で概観した知識、事例を用いて検討した内容を基盤とし、自分なりの犯罪分野に関する理解と支援イメージをまとめておいて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要に応じてレジユメを提示する。 【参考書】 ・犯罪白書 ・犯罪・非行の心理学 有斐閣ブックス ・非行臨床の新潮流 金剛出版	心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

定期的に授業内容を振り返る小レポート課題を設定し、内容に対する理解度を確認する。理解度を確認し、講義の重点項目については反復して講義内でも検討する。

備考

科目名	障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	木元 卓也	関連する資格	公認心理師受験資格 臨床心理士受験資格	

授業概要

本授業は対面で実施する。

公認心理師の働く福祉分野は乳幼児期から高齢期までの人々を対象としており、さまざまな心理社会的課題を抱えている。それぞれの福祉現場における関係法規・制度や機関・施設の概要と業務について理解する。また、各福祉現場において遭遇する課題に関する適切な支援ができるよう事例を取り上げて修得する。

到達目標

(2304)

1. 各福祉分野における実践内容を理解できる。
2. 各福祉分野における必要な支援について説明できる。

成績評価方法

定期試験、小レポート、授業態度、グループワーク参加度で評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート		○	○				10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ガイダンス、公認心理師が働く福祉現場の実情と課題 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
2) 福祉現場における理論の展開（1）児童を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
3) 福祉現場における理論の展開（2）児童を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
4) 福祉現場における理論の展開（3）児童を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
5) 福祉現場における理論の展開（1）障害児（者）を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
6) 福祉現場における理論の展開（2）障害児（者）を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
7) 福祉現場における理論の展開（3）障害児（者）を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
8) 福祉現場における理論の展開（1）高齢者を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
9) 福祉現場における理論の展開（2）高齢者を対象とした機関・福祉施設の概要と業務 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
10) 福祉現場における理論の展開（1）福祉現場での多職種・関係機関との連携、心理的支援 【予習】テキストを読んでおく（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて調べたことをレポートする（90分）	小レポート
11) 福祉現場における支援の展開（1）福祉現場の実践：活動事例検討 【予習】事例を読み、支援内容を検討する（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて検討したことについてレポートする（90分）	小レポート
12) 福祉現場における支援の展開（2）福祉現場の実践：活動事例検討 【予習】事例を読み、支援内容を検討する（60分）【復習】理解できたこと・疑問点・改めて検討したことについてレポートする（90分）	小レポート
13) 福祉現場における支援の展開（3）福祉現場の実践：活動事例検討 【予習】事例を読み、支援内容を検討する（60分）【復習】理解できたこと・改めて検討したことについてレポートする（90分）	小レポート
14) 福祉現場における支援の展開（4）福祉現場の実践：活動事例検討 【予習】事例を読み、支援内容を検討する（60分）【復習】理解できたこと・改めて検討したことについてレポートする（90分）	小レポート
15) 福祉現場における支援の展開　まとめ	小レポート
授業外学習	
事前の予習及び本講で概観した知識、グループワークでの検討結果などを元にして、理解できたことや自身で更に考察した支援についてまとめておいて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 開講時に示す。 必要に応じて資料を配布する。	心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

小レポートは、次回授業時にコメントを付けて返す。なお、全員での共有が望ましい内容については、授業の中で取り上げる。

備考

科目名	臨床心理面接特論 (心理支援に関する理論と実践)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	馬場 弓歌	関連する資格	公認心理師、臨床心理士	

授業概要

臨床心理面接は対人援助を行う際に用いられる最も基本的かつ重要な方法である。本講義ではまず、初回面接で必要な人間関係の構築から情報収集の仕方、見立てについて学ぶことにより、基本的な面接の技法を習得する。これを基礎として、様々な心理療法について学習する。具体的には以下のとおりである。1) 来談者中心療法に基づく心理療法の理論と方法。2) 力動論に基づく心理療法の理論と方法。3) 行動論、認知論に基づく心理療法の理論と方法。4) 心理に関する相談、助言、指導等への各種心理療法の応用。5) クライアントの特性や状況に応じた適切な支援方法の選択。
 なお、担当教員は公認心理師・臨床心理士であり、教育領域、産業領域、地域の私設相談機関などにおいて心理学的支援を実践している。

到達目標

ナンバリング(2102)

- ・心理臨床場面に臨む援助者の態度を身につける。
- ・どのような聴き方がクライアントの表現を促すことになるのかを理解し、説明できる。
- ・クライアントの発言について、内省の度合いを評価できる。
- ・さまざまな心理療法の技法(パーソンセンタード・アプローチや力動論に基づく心理療法、行動論・認知論に基づく心理療法、その他各種の心理療法)に触れ、それぞれの立場によるアプローチの違いを認識するとともに、それぞれの特性を持ったクライアントにふさわしい援助計画が構築できる。

成績評価方法

毎回授業ごとのレポート課題、受講態度、及び最終レポートにより総合的に判断する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 心理臨床と私 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の意味を深化させていくこと（90分）。	
2) 二者関係臨床とコンサルテーション 初回面接での留意点 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の意味を深化させていくこと（90分）。	
3) 関係論からみた対人援助(1) 甘えを抱えること 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の意味を深化させていくこと（90分）。	
4) 関係論からみた対人援助(2) メンタライゼーション 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の意味を深化させていくこと（90分）。	
5) ロジャーズの中核3条件について 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の意味を深化させていくこと（90分）。	
6) 「関与観察」としてのフォーカシング 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の意味を深化させていくこと（90分）。	
7) 「自己一致」による心理臨床的援助 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の意味を深化させていくこと（90分）。	
8) 気になる行動の背景にある愛着障害 その背景と対応上の留意点 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の意味を深化させていくこと（90分）。	
9) 解離症状の理解と援助 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の方針の設定、展開の構築を考える（90分）。	
10) 愛着に課題を抱えるクライアントへの心理臨床的アプローチ 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の方針の設定、展開の構築を考える（90分）。	
11) 症状による人間理解と症状への援助(1) 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
12) 症状による人間理解と症状への援助(2) 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
13) 事例に学ぶ不登校の理解と支援(1) 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
14) 事例に学ぶ不登校の理解と支援(2) 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
15) 企業における臨床心理士の活動と役割 産業心理臨床の現場から 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。 【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
授業外学習	
心理療法に関する文献を読み、各技法についてある程度知っておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要に応じて資料を配布する。	臨床心理学特論 ・ 、保健医療分野に関する理論と支援の展開、心の健康教育に関する理論と実践

課題に対するフィードバック

次回の授業冒頭で紹介し、解説する。

備考

科目名	臨床心理面接特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	馬場 弓歌	関連する資格	臨床心理士、公認心理師	

授業概要

臨床心理面接の実際について、具体的な事例を検討することを通して、心理面接技法、事例の見立て方、援助的枠組みの設定などについての技術を習得することを目標とする。特に心理臨床の立場を超えた援助者としての基本的な態度について実践的な観点からの理解を深める。具体的には、インテーク面接、学校臨床、福祉臨床、産業臨床など様々な面接場面に該当する事例を紹介し、援助的な関わり方についてグループでディスカッションを行う。
 なお、担当教員は公認心理師・臨床心理士であり、教育領域、産業領域、地域私設相談機関などにおいて心理学的支援を実践している。

到達目標

ナンバリング(2103)

- ・クライアントの話を引き出す傾聴の方法を習得する。
- ・あらゆる心理療法の技法と立場を超えて求められる援助者の態度を理解し、実践に活かせる。

成績評価方法

毎回授業ごとのレポート課題、受講態度、及び最終レポートにより総合的に判断する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							30
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							30
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション この授業で取り上げるテーマについて解説する。 【予習】臨床における治療的面接の基本について学習しておくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	
2) 児童養護施設に入所する児童への生活臨床と心理臨床的援助について学ぶ 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していく（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
3) 愛着障害の背景理解と対応上の留意点 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
4) 力動論に基づく心理療法の理論と方法、その実践（1） 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
5) 力動論に基づく心理療法の理論と方法、その実践（2） 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
6) 行動・認知論に基づく心理療法の理論と方法、その実践（1） 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
7) 行動・認知論に基づく心理療法の理論と方法、その実践（2） 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
8) 人間性心理学に基づく心理療法の理論と方法、その実践（1） 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
9) 人間性心理学に基づく心理療法の理論と方法、その実践（2） 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
10) その他の心理療法の理論と方法、その実践～フォーカシング・身体技法～ 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
11) その他の心理療法の理論と方法、その実践～イメージ面接～ 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
12) その他の心理療法の理論と方法、その実践～芸術療法～ 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
13) 学校臨床領域における不登校支援の多職種連携の実際 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
14) 産業臨床における心の専門家の役割について実践的に学ぶ。 【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
15) 授業全体を振り返り、受講者同士の対話を通して心理面接に関する理解の定着を図る。【予習】臨床における治療的面接の基本について順次学習していくこと（120分）。【復習】治療的面接の中で生起する課題を面接に生かしていく（90分）。	グループワーク
授業外学習	
授業内容について各自予習と復習を継続する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜、資料を提示する。	臨床心理面接特論、臨床心理学特論、保健医療分野に関する理論と支援の展開、心の健康教育に関する理論と実践

課題に対するフィードバック

次回の授業冒頭で紹介し、解説する。

備考

科目名	認知心理学特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	榎本 俊哉	関連する資格	臨床心理士	

授業概要

この講義では、認知・行動療法を実際に自分自身や心理的な援助を希望するクライアントに実践できるようになることを目的とする。このため、この講義では体験と実践を通して認知行動療法を学ぶ。
 なお、この講義の担当者は公認心理師・臨床心理士であり、主として医療保健領域、教育領域および産業組織領域における実務経験を有している。この実務経験をもとに、臨床現場における認知行動療法の実際問題についても検討する。

到達目標

(2101)
 認知行動療法を理解し、説明できる。
 認知行動療法を実践し、心理支援に活用することができる。

成績評価方法

主として実践レポートとそのプレゼンテーション内容により評価する。なお、実践レポートの提出およびプレゼンテーションのない場合には成績評価の対象とならないので注意すること。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			50
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション	○	○	○		○		30
グループワーク		○	○	○	○		10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 認知行動療法について 【予習】臨床心理学に関するこれまでの学びを復習する 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	
2) 認知再構成法・コラム法 【予習】認知行動療法の文献の精読 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	演習・グループワーク
3) 認知再構成法・コラム法 【予習】認知行動療法の文献の精読 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	演習・グループワーク
4) マインドフルネス 【予習】認知行動療法の文献の精読 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	演習・グループワーク
5) マインドフルネス 【予習】認知行動療法の文献の精読 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	演習・グループワーク
6) イメージを用いる心理療法 【予習】認知行動療法の文献の精読 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	演習・グループワーク
7) イメージを用いる心理療法 【予習】認知行動療法の文献の精読 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	演習・グループワーク
8) 行動療法 【予習】認知行動療法の文献の精読 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	演習・グループワーク
9) 行動療法 【予習】認知行動療法の文献の精読 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	演習・グループワーク
10) 行動活性化療法 【予習】認知行動療法の文献の精読 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	演習・グループワーク
11) 行動活性化療法 【予習】認知行動療法の文献の精読 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	演習・グループワーク
12) 認知行動療法の実践と振り返り 1 【予習】授業内容の復習 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	プレゼンテーション・演習
13) 認知行動療法の実践と振り返り 2 【予習】授業内容の復習 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	プレゼンテーション・演習
14) 認知行動療法の実践と振り返り 3 【予習】授業内容の復習 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	プレゼンテーション・演習
15) 認知行動療法の実践と振り返り 4 【予習】授業内容の復習 【復習】授業内容のふりかえり（各60分）	プレゼンテーション・演習
授業外学習	
認知・行動療法に関する実践レポートを課す。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜資料を配付する	心理実践実習・臨床心理実習

課題に対するフィードバック

課題についてはプレゼンテーションの機会を設け、受講生とともにディスカッションを行う。

備考

科目名	プレイセラピー特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	木元 卓也	関連する資格		

授業概要

遊戯療法は遊びを媒介とした、治療法である。遊びには能動的遊びと受動的遊びがある。この二つの遊びのスタイルを、その都度振り替えながら治療を展開していく。ここでは、大学院附属臨床心理相談センターにおける実践を通してプレイセラピーの基本的姿勢を修得する。

到達目標

(2104)
人間の理解と支援における真摯な態度の涵養に関わる為、心理職の専門家として望ましい態度と基本的姿勢について理解する。さらに、実践を通してプレイセラピーが持つ、遊びの機能と意味について説明できる。

成績評価方法

授業への積極的参加と小レポートによって評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○		○			20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		30
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) プレイセラピーとは？～オリエンテーション～ 【予習】プレイセラピーについて調べる(60分) 【復習】プレイセラピーについて説明できる(60分)	グループワーク
2) 遊びの意味について 【予習】遊びの機能について調べる(60分) 【復習】治療プロセスにおける遊びについて説明できる(60分)	グループワーク
3) プレイセラピーの歴史と発展 【予習】プレイセラピーの歴史をまとめる(60分) 【復習】プレイセラピーの現在の立ち位置を知る(60分)	グループワーク
4) 子ども中心セラピー 【予習】治療的な関わりについて調べる(60分) 【復習】子どもたちがプレイセラピーにおいて学ぶこと(60分)	グループワーク
5) プレイセラピストの役割 【予習】セラピストの自己理解について調べる(60分) 【復習】プレイセラピーの事例論文を読み込む(60分)	グループワーク
6) プレイセラピーの部屋と道具 【予習】プレイセラピーの遊具について調べる(60分) 【復習】プレイセラピーの事例論文を読み込む(60分)	プレゼンテーション
7) プレイセラピーのセッションの構造 【予習】プレイセラピーの構造について調べる(60分) 【復習】プレイセラピーの構造についてまとめる(60分)	プレゼンテーション
8) 大学院附属臨床心理相談センターにおける事例 【予習】事例の概要について読み込む(60分) 【復習】プレイセラピーの事例論文を読み込む(60分)	プレゼンテーション
9) 大学院附属臨床心理相談センターにおける事例 【予習】事例の概要について読み込む(60分) 【復習】プレイセラピーの事例論文を読み込む(60分)	プレゼンテーション
10) 大学院附属臨床心理相談センターにおける事例 【予習】事例の概要について読み込む(60分) 【復習】プレイセラピーの事例論文を読み込む(60分)	プレゼンテーション
11) 施設心理士とプレイセラピー 【予習】施設心理士について調べる(60分) 【復習】児童福祉領域の事例論文を読み込む(60分)	プレゼンテーション
12) 知能検査結果から考える子どもへの支援 【予習】WISC-IIIについて調べる(60分) 【復習】知能検査について復習する(60分)	プレゼンテーション
13) フリースペースフロンティアと不登校 【予習】フリースペースフロンティアについて調べる(60分) 【復習】不登校についてまとめる(60分)	プレゼンテーション
14) 放課後デイサービスと特別支援教育 【予習】放課後等デイサービスについて調べる(60分) 【復習】特別支援教育についてまとめる(60分)	プレゼンテーション
15) まとめ	小レポート
授業外学習	
大学院附属臨床心理相談センターでの電話受付業務ならびに実習を通して、支援における真摯な態度の涵養に努める。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
「遊びからみえる子どものこころ」 日本遊戯療法学会編	臨床心理面接特論

課題に対するフィードバック

大学院附属臨床心理相談センターでの実習について、必ずスーパーヴィジョンを受けること。

備考

科目名	臨床心理査定演習（心理的アセスメントに関する理論と実践）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	2	1年	後期
担当者名	脇 貴典	関連する資格	公認心理師 臨床心理士	

授業概要

心理査定の意義や理論、その方法について理解するとともに、実際に心理検査を体験し所見を書く。また、その実施、分析、解釈について検討する。

実務経験

臨床心理士・公認心理師の資格を有しており、学校・教育領域における専門職（スクールカウンセラー・教育相談員・障害学生支援担当者等）として心理査定・心理支援を行ってきた。これまでの経験をもとに、実践的な授業を行う。

到達目標

（2105）
心理検査を理解しそれらを十分に実施できる。また、心理支援につなげるための心理所見を作成できることを目指す。

成績評価方法

課題およびレポート作成（40%）
授業参加度（発言、質疑応答等）（20%）
プレゼンテーション（10%）
演習（30%）

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○					40
授業態度・授業参加度	○	○	○				20
プレゼンテーション	○	○	○	○			10
グループワーク							
演習	○	○	○				30
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) アセスメントの意義と理解 【予習】心理査定の意義について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	ディスカッション
2) アセスメント（パーソナリティ検査1） 【予習】パーソナリティ検査の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
3) アセスメント（パーソナリティ検査2） 【予習】パーソナリティ検査の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
4) アセスメント（症状評価1） 【予習】症状評価の検査の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
5) アセスメント（症状評価2） 【予習】症状評価の検査の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
6) アセスメント（症状評価3） 【予習】症状評価の検査の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
7) アセスメント（適応行動） 【予習】適応行動の評価や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
8) アセスメント（発達検査1） 【予習】発達検査の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
9) アセスメント（発達検査2） 【予習】発達検査の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
10) アセスメント（知能検査1） 【予習】知能検査の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
11) アセスメント（知能検査2） 【予習】知能検査の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
12) アセスメント（知能検査3） 【予習】知能検査の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
13) アセスメントの実際（Wechsler式知能検査の概要・方法） 【予習】Wechsler式知能検査の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
14) アセスメントの実際（Wechsler式知能検査のスコアリング） 【予習】Wechsler式知能検査の方法・採点について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
15) アセスメントの実際（Wechsler式知能検査の結果分析） 【予習】Wechsler式知能検査の分析・解釈について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
授業外学習	
授業で取り組んだ心理検査について習熟できるように、授業時間外においても可能な範囲で学修に取り組む。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度、プリントを用意する。 （参考書）松田修・滝沢龍；臨床心理アセスメント 東京大学出版会	臨床心理査定演習 投映法特論

課題に対するフィードバック

レポートはコメントを付して返却する。

備考

取り上げる検査内容は、受講者の学修状況等により適宜調整を行う。
合理的配慮の申請を歓迎する。

科目名	臨床心理査定演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	2	2年	前期
担当者名	脇 貴典	関連する資格	公認心理師 臨床心理士	

授業概要

臨床心理査定演習 に引き続き、心理査定の演習を行う。心理査定の実施およびフィードバックができ、心理支援を必要とするクライアントの支援につなげられる心理査定の実践について学ぶ。

実務経験

臨床心理士・公認心理師の資格を有しており、学校・教育領域における専門職（スクールカウンセラー・教育相談員・障害学生支援担当者等）として心理査定・心理支援を行ってきた。これまでの経験をもとに、実践的な授業を行う。

到達目標

(2106)
心理検査について基本的な実施、解釈、フィードバックが可能になること
心理査定から心理支援につなげられるようになること

成績評価方法

課題およびレポート作成 (40%)
プレゼンテーション (10%)
グループワーク (20%)
演習 (30%)

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○					40
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○	○	○			10
グループワーク	○	○	○				20
演習	○	○	○				30
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション（心理査定の概要） 【予習】心理査定の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	ディスカッション
2) アセスメント（初回面接/行動観察） 【予習】アセスメントの初回面接について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
3) アセスメント（ケースフォーミュレーション） 【予習】ケースフォーミュレーションについて調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
4) アセスメント（カテゴリー/ディメンション的モデル） 【予習】カテゴリーカ/ディメンショナルなアセスメントについて調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
5) アセスメント（テストバッテリー） 【予習】テストバッテリーについて調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
6) アセスメント（フィードバック） 【予習】アセスメントのフィードバックについて調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
7) アセスメントに基づく事例検討1 【予習】事例報告におけるアセスメントの詳細について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
8) アセスメントに基づく事例検討2 【予習】事例報告におけるアセスメントの詳細について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
9) アセスメントに基づく事例検討3 【予習】事例報告におけるアセスメントの詳細について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
10) アセスメントの実施（応用と討議1） 【予習】アセスメントの実施とその応用について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、ディスカッション
11) アセスメントの実施（応用と討議2） 【予習】アセスメントの実施とその応用について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、ディスカッション
12) アセスメントの実施（応用と討議3） 【予習】アセスメントの実施とその応用について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、ディスカッション
13) アセスメントの実施（応用と討議4） 【予習】アセスメントの実施とその応用について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、ディスカッション
14) アセスメントの実施（応用と討議5） 【予習】アセスメントの実施とその応用について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、ディスカッション
15) 総括（心理査定と心理支援） 【予習】心理査定に基づく心理支援について調べる（60分） 【復習】本授業全体についてまとめる（90分）	プレゼンテーション、ディスカッション
授業外学習	
心理査定全般について習熟できるように、授業時間外においても可能な範囲で学修に取り組む。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度、プリントを用意する。 （参考書）高橋知音・佐々木銀河・中野泰伺；発達障害のある大学生のアセスメント 金子書房	臨床心理査定演習、投映法特論

課題に対するフィードバック

レポートはコメントを付して返却する。

備考

授業で取り上げる内容は、受講者の学修状況等により適宜調整を行う。
合理的配慮の申請を歓迎する。

科目名	投射法特論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	脇 貴典	関連する資格	臨床心理士	

授業概要

心理検査の中でも特に投影法（ロールシャッハ・テスト、描画検査など）について、各検査の背景、実施方法、分析方法、解釈について学ぶ。

実務経験

臨床心理士・公認心理師の資格を有しており、学校・教育領域における専門職（スクールカウンセラー・教育相談員・障害学生支援担当者等）として心理査定・心理支援を行ってきた。これまでの経験をもとに、実践的な授業を行う。

到達目標

（2107）
 投影法について基本的な実施、解釈が可能になること。また、心理支援につなげるための心理所見を作成できること。

成績評価方法

課題およびレポート作成（40%）
 授業参加度（発言、質疑応答等）（20%）
 プレゼンテーション（10%）
 演習（30%）

評価項目	評価基準						評価割合（%）
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験（中間・期末）							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○					40
授業態度・授業参加度	○	○	○				20
プレゼンテーション	○	○	○	○			10
グループワーク							
演習	○	○	○				30
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション（投影法） 【予習】投影法の意義について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	ディスカッション
2) 投影法（baumテスト1） 【予習】baumテストの理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
3) 投影法（baumテスト2） 【予習】baumテストの理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
4) 投影法（P-Fスタディ1） 【予習】P-Fスタディの理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
5) 投影法（P-Fスタディ2） 【予習】P-Fスタディの理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
6) 投影法（SCT1） 【予習】SCTの理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
7) 投影法（SCT2） 【予習】SCTの理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
8) 投影法（風景構成法1） 【予習】風景構成法の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
9) 投影法（風景構成法2） 【予習】風景構成法の理論や方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
10) 投影法の実際（ロールシャッハ・テストの概要） 【予習】ロールシャッハテストの理論・方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習、ディスカッション
11) 投影法の実際（ロールシャッハ・テストの方法） 【予習】ロールシャッハテストの理論・方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習
12) 投影法の実際（ロールシャッハ・テストの実施1） 【予習】ロールシャッハテストの理論・方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	演習
13) 投影法の実際（ロールシャッハ・テストの実施2） 【予習】ロールシャッハテストの理論・方法について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	演習
14) 投影法の実際（ロールシャッハ・テストのスコアリング） 【予習】ロールシャッハテストの方法・採点について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習
15) 投影法の実際（ロールシャッハ・テストの解釈） 【予習】ロールシャッハテストの分析・解釈について調べる（60分） 【復習】授業内容について理解を深めまとめる（60分）	プレゼンテーション、演習
授業外学習	
授業で取り組んだ心理検査について習熟できるように、授業時間外においても可能な範囲で学修に取り組む。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度、プリントを用意する。 （参考書）小野和雄；ロールシャッハテストその実施、解釈、臨床例 川島書店 （参考書）片口安史；新・心理診断法 金子書房	臨床心理査定演習

課題に対するフィードバック

レポートはコメントを付して返却する。

備考

取り上げる検査内容は、受講者の学修状況等により適宜調整を行う。
合理的配慮の申請を歓迎する。

科目名	臨床心理基礎実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	1年	通年(前期)
担当者名	木元 卓也、高田 晃	関連する資格	公認心理師 臨床心理士	

授業概要

臨床心理基礎実習は、心理臨床を実際に行って行くに当たっての訓練である。従って、電話受付やクライアントへの連絡など、実務も体験する。事例研究に参加したり、後期からは教員の面接の陪席を行いそのケースについてケースカンファレンスで中心的に発表したりして、臨床実践の基礎を体験的に習得する。

実務経験

担当教員（高田先生）は公認心理師・臨床心理士であり、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラー、スクールカウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的な指導を行う。

担当教員（木元先生）は児童福祉分野・家庭福祉分野は、児童福祉施設の実務経験をもとに木元がドメスティック・バイオレンス（DV）及び子ども虐待について携わっている。これらの臨床経験をもとに指導する。

到達目標

（2201）
実践のための基礎的な実務の能力を身に付けることを目的とする。

成績評価方法

用意された課題をこなすことが条件であり、実際に実務を行うことが条件となる。その取り組みの姿勢を見て総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		80

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
1) 受付業務の見学1 2) 受付業務の見学2 3) 実際に受付業務を体験する1 4) 実際に受付業務を体験する2 5) 電話受付の見学 6) 電話受付の体験1 7) 電話受付の体験2 8) 模擬事例によるロールプレイ1 9) 模擬事例によるロールプレイ2 10) 模擬事例によるロールプレイ3 11) 倫理及び専門家に求められる資質について 12) 倫理と秘密保持について模擬事例によるロールプレイ1 13) 倫理と秘密保持について模擬事例によるロールプレイ2 14) 教員のおこなうケースの陪席1 15) 教員のおこなうケースの陪席2 16) 教員のおこなうケースの陪席3 17) 陪席ケースの報告1 18) 陪席ケースの報告2 19) 陪席ケースの報告3 20) 外部招待者の事例検討会への出席1 21) 外部招待者の事例検討会への出席2 22) 外部招待者の事例検討会への出席3 23) 陪席事例に対するグループ討議1 24) 陪席事例に対するグループ討議2 25) 陪席事例に対するグループ討議3 26) 事例に対する基本姿勢の習得1 27) 事例に対する基本姿勢の習得2 28) 予備日 29) 予備日 30) 統括	実習 プレゼンテーション ディスカッション
授業外学習	
<p> 々のケースについて、症状、用いられる心理治療について、よく調べて理解したうえで治療場面に臨むことが前提となる。 ケース記録は速やかに行いケース担当教員に提出しSVを受ける。 ケースカンファレンスで発表する際は、事前に資料を作成し担当教員の確認を得て、プレゼンテーションに臨む。 </p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
臨床心理士に出会うには、創元社 臨床心理学全集、誠信書房	臨床心理に関連するあらゆる科目、特に 臨床心理面接特論、臨床心理学特論

課題に対するフィードバック

その都度行う

備考

分からないこと疑問に思ったことは直ぐにSVに尋ねる。

科目名	臨床心理基礎実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	1年	通年(後期)
担当者名	木元 卓也、高田 晃	関連する資格	公認心理師 臨床心理士	

授業概要

臨床心理基礎実習は、心理臨床を実際に行き行って行くに当たっての訓練である。従って、電話受付やクライアントへの連絡など、実務も体験する。事例研究に参加したり、後期からは教員の面接の陪席を行いそのケースについてケースカンファレンスで中心的に発表したりして、臨床実践の基礎を体験的に習得する。

実務経験

担当教員（高田先生）は公認心理師・臨床心理士であり、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラー、スクールカウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的な指導を行う。

担当教員（木元先生）は児童福祉分野・家庭福祉分野は、児童福祉施設の実務経験をもとに木元がドメスティック・バイオレンス（DV）及び子ども虐待について携わっている。これらの臨床経験をもとに指導する。

到達目標

（2201）
実践のための基礎的な実務の能力を身に付けることを目的とする。

成績評価方法

用意された課題をこなすことが条件であり、実際に実務を行うことが条件となる。その取り組みの姿勢を見て総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		80

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
1) 受付業務の見学1 2) 受付業務の見学2 3) 実際に受付業務を体験する1 4) 実際に受付業務を体験する2 5) 電話受付の見学 6) 電話受付の体験1 7) 電話受付の体験2 8) 模擬事例によるロールプレイ1 9) 模擬事例によるロールプレイ2 10) 模擬事例によるロールプレイ3 11) 社会資源マップの作製1 12) 社会資源マップの作製2 13) 関係機関との連携について 14) 教員のおこなうケースの陪席1 15) 教員のおこなうケースの陪席2 16) 教員のおこなうケースの陪席3 17) 陪席ケースの報告1 18) 陪席ケースの報告2 19) 陪席ケースの報告3 20) 外部招待者の事例検討会への出席1 21) 外部招待者の事例検討会への出席2 22) 外部招待者の事例検討会への出席3 23) 陪席事例に対するグループ討議1 24) 陪席事例に対するグループ討議2 25) 陪席事例に対するグループ討議3 26) 事例に対する基本姿勢の習得1 27) 事例に対する基本姿勢の習得2 28) 予備日 29) 予備日 30) 統括	実習 プレゼンテーション ディスカッション
授業外学習	
<p>々のケースについて、症状、用いられる心理治療について、よく調べて理解したうえで治療場面に臨むことが前提となる。ケース記録は速やかに行いケース担当教員に提出しSVを受ける。</p> <p>ケースカンファレンスで発表する際は、事前に資料を作成し担当教員の確認を得て、プレゼンテーションに臨む。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
臨床心理士のための精神科領域における心理臨床、津川律子 臨床心理士と出会うには、創元社 臨床心理学全集、誠信書房	臨床心理に関連するあらゆる科目、特に 臨床心理面接特論、臨床心理学特論

課題に対するフィードバック

その都度行う

備考

分からないこと疑問に思ったことは直ぐにSVに尋ねる。

科目名	心理実践実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	0	1年	通年(前期)			
担当者名	榎本 俊哉、西村 秀明、小山 典子、木元 卓也		関連する資格	公認心理師 臨床心理士			
授業概要 「心理実践実習」(180時間以上)では、本学附属の臨床心理相談センター等において実施した心理臨床に関する事例について教員とともに大学院生全体で事例検討およびスーパーヴィジョン等を行う。これにより、心理臨床の実践上の諸問題について理解を深め、多様な心理援助の方法を学修・習熟することを目的とする。 なお、この実習の担当者は公認心理師・臨床心理士であり、主として医療保健領域、教育領域、福祉領域および産業組織領域における実務経験を有している。この実務経験を活かし、現場における実際問題についても検討する。							
到達目標 (2202) 「心理実践実習」における到達目標は次のとおりである。 1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援、心理教育等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、および技能の修得 2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能 3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得 4) 心理専門職としての職業倫理の自覚、および法的義務の理解 なお、これらの目標達成のための方法として、事例検討やスーパーヴィジョンを用いる。			成績評価方法 事例検討の視点およびスーパーヴィジョンに対する理解度等を通して総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1)～30) 本学附属の臨床心理相談センター等で実施した心理臨床に関する事例等について教員とともにM1・M2全体で検討し、多様な心理援助の方法について学修・習熟する。なかでも、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援、心理教育等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、および技能について、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、およびニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能について、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携などについて、4)心理専門職としての職業倫理の自覚、および法的義務の理解について、重点的に検証していく。</p> <p>【予習】事例について、主訴、ニーズ、家族歴、生活史、面接等の経過をまとめ、今後の方針等について端的に整理すること。（各回120分）</p> <p>【復習】カンファレンスにおいて検討された内容を振り返り、参考文献を精読し、今後の心理臨床実践に活用すること。（各回120分）</p>	<p>心理臨床に関する事例検討およびスーパーヴィジョンに基づくグループワークを実施する。なお、グループワークの中で、左記の視点については重点的に検討を加える。</p>
授業外学習	
<p>履修生全員に、臨床心理相談センターにおいて担当した事例の経過をまとめ、報告することを課す。なお、心理臨床に関わる諸技能を学習するとともに、実際に事例援助の過程で修得した支援の視点を身につけて授業に臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは指定しない。 適宜資料を配布し、参考図書を紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

報告された事例の経過について検討し、グループワークの意見も加味して授業内にコメントする。なお、事例の担当については別途担当教員のスーパービジョンを受けていることが求められる。

備考

科目名	心理実践実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	0	1年	通年(後期)			
担当者名	榎本 俊哉、西村 秀明、小山 典子、木元 卓也		関連する資格	公認心理師 臨床心理士			
授業概要 「心理実践実習」(180時間以上)では、本学附属の臨床心理相談センター等において実施した心理臨床に関する事例について教員とともに大学院生全体で事例検討およびスーパーヴィジョン等を行う。これにより、心理臨床の実践上の諸問題について理解を深め、多様な心理援助の方法を学修・習熟することを目的とする。 なお、この実習の担当者は公認心理師・臨床心理士であり、主として医療保健領域、教育領域、福祉領域および産業組織領域における実務経験を有している。この実務経験を活かし、現場における実際問題についても検討する。							
到達目標 (2202) 「心理実践実習」における到達目標は次のとおりである。 1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援、心理教育等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、および技能の修得 2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能 3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得 4) 心理専門職としての職業倫理の自覚、および法的義務の理解 なお、これらの目標達成のための方法として、事例検討やスーパーヴィジョンを用いる。			成績評価方法 事例検討の視点およびスーパーヴィジョンに対する理解度等を通して総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1)～30) 本学附属の臨床心理相談センター等で実施した心理臨床に関する事例等について教員とともにM1・M2全体で検討し、多様な心理援助の方法について学修・習熟する。なかでも、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援、心理教育等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、および技能について、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、およびニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能について、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携などについて、4)心理専門職としての職業倫理の自覚、および法的義務の理解について、重点的に検証していく。</p> <p>【予習】事例について、主訴、ニーズ、家族歴、生活史、面接等の経過をまとめ、今後の方針等について端的に整理すること。（各回120分）</p> <p>【復習】カンファレンスにおいて検討された内容を振り返り、参考文献を精読し、今後の心理臨床実践に活用すること。（各回120分）</p>	<p>心理臨床に関する事例検討およびスーパーヴィジョンに基づくグループワークを実施する。なお、グループワークの中で、左記の視点については重点的に検討を加える。</p>
授業外学習	
<p>履修生全員に、臨床心理相談センターにおいて担当した事例の経過をまとめ、報告することを課す。なお、心理臨床に関わる諸技能を学習するとともに、実際に事例援助の過程で修得した支援の視点を身につけて授業に臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは指定しない。 適宜資料を配布し、参考図書を紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

報告された事例の経過について検討し、グループワークの意見も加味して授業内にコメントする。なお、事例の担当については別途担当教員のスーパービジョンを受けていることが求められる。

備考

科目名	心理実践実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	4	2年	通年(前期)			
担当者名	榎本 俊哉、西村 秀明、小山 典子、木元 卓也		関連する資格	公認心理師 臨床心理士			
授業概要 「心理実践実習」(180時間以上)では、本学附属の臨床心理相談センター等において実施した心理臨床に関する事例について教員とともに大学院生全体で事例検討およびスーパーヴィジョン等を行う。これにより、心理臨床の実践上の諸問題について理解を深め、多様な心理援助の方法を学修・習熟することを目的とする。 なお、この実習の担当者は公認心理師・臨床心理士であり、主として医療保健領域、教育領域、福祉領域および産業組織領域における実務経験を有している。この実務経験を活かし、現場における実際問題についても検討する。							
到達目標 (2202) 「心理実践実習」における到達目標は次のとおりである。 1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援、心理教育等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、および技能の修得 2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能 3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得 4) 心理専門職としての職業倫理の自覚、および法的義務の理解 なお、これらの目標達成のための方法として、事例検討やスーパーヴィジョンを用いる。			成績評価方法 事例検討の視点およびスーパーヴィジョンに対する理解度等を通して総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1)～30) 本学附属の臨床心理相談センター等で実施した心理臨床に関する事例等について教員とともにM1・M2全体で検討し、多様な心理援助の方法について学修・習熟する。なかでも、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援、心理教育等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、および技能について、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、およびニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能について、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携などについて、4)心理専門職としての職業倫理の自覚、および法的義務の理解について、重点的に検証していく。</p> <p>【予習】事例について、主訴、ニーズ、家族歴、生活史、面接等の経過をまとめ、今後の方針等について端的に整理すること。（各回120分）</p> <p>【復習】カンファレンスにおいて検討された内容を振り返り、参考文献を精読し、今後の心理臨床実践に活用すること。（各回120分）</p>	<p>心理臨床に関する事例検討およびスーパーヴィジョンに基づくグループワークを実施する。なお、グループワークの中で、左記の視点については重点的に検討を加える。</p>
授業外学習	
<p>履修生全員に、臨床心理相談センターにおいて担当した事例の経過をまとめ、報告することを課す。なお、心理臨床に関わる諸技能を学習するとともに、実際に事例援助の過程で修得した支援の視点を身につけて授業に臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは指定しない。 適宜資料を配布し、参考図書を紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

報告された事例の経過について検討し、グループワークの意見も加味して授業内にコメントする。なお、事例の担当については別途担当教員のスーパービジョンを受けていることが求められる。

備考

科目名	心理実践実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	4	2年	通年(後期)			
担当者名	榎本 俊哉、西村 秀明、小山 典子、木元 卓也		関連する資格	公認心理師 臨床心理士			
授業概要 「心理実践実習」(180時間以上)では、本学附属の臨床心理相談センター等において実施した心理臨床に関する事例について教員とともに大学院生全体で事例検討およびスーパーヴィジョン等を行う。これにより、心理臨床の実践上の諸問題について理解を深め、多様な心理援助の方法を学修・習熟することを目的とする。 なお、この実習の担当者は公認心理師・臨床心理士であり、主として医療保健領域、教育領域、福祉領域および産業組織領域における実務経験を有している。この実務経験を活かし、現場における実際問題についても検討する。							
到達目標 (2202) 「心理実践実習」における到達目標は次のとおりである。 1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援、心理教育等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、および技能の修得 2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能 3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得 4) 心理専門職としての職業倫理の自覚、および法的義務の理解 なお、これらの目標達成のための方法として、事例検討やスーパーヴィジョンを用いる。			成績評価方法 事例検討の視点およびスーパーヴィジョンに対する理解度等を通して総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1)～30) 本学附属の臨床心理相談センター等で実施した心理臨床に関する事例等について教員とともにM1・M2全体で検討し、多様な心理援助の方法について学修・習熟する。なかでも、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援、心理教育等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、および技能について、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、およびニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能について、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携などについて、4)心理専門職としての職業倫理の自覚、および法的義務の理解について、重点的に検証していく。</p> <p>【予習】事例について、主訴、ニーズ、家族歴、生活史、面接等の経過をまとめ、今後の方針等について端的に整理すること。（各回120分）</p> <p>【復習】カンファレンスにおいて検討された内容を振り返り、今後の心理臨床実践に活用すること。（各回120分）</p>	<p>心理臨床に関する事例検討およびスーパーヴィジョンに基づくグループワークを実施する。なお、グループワークの中で、左記の視点については重点的に検討を加える。</p>
授業外学習	
<p>履修生全員に、臨床心理相談センターにおいて担当した事例の経過をまとめ、報告することを課す。なお、心理臨床に関わる諸技能を学習するとともに、実際に事例援助の過程で修得した支援の視点を身につけて授業に臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは指定しない。 適宜資料を配布し、参考図書を紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

報告された事例の経過について検討し、グループワークの意見も加味して授業内にコメントする。なお、事例の担当については別途担当教員のスーパービジョンを受けていることが求められる。

備考

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	0	1年	後期
担当者名	木元 卓也、西村 秀明、小山 典子、 榎本 俊哉、高田 晃、馬場 弓歌	関連する資格	臨床心理士 公認心理師	

授業概要
 本学附属臨床心理相談センター等において、180時間以上、指導教員の陪席を含め実際に事例を継続担当していく。
 具体的には、1年後期、2年通年の18ヶ月（約60週）において、平均2週間に1回（約30週）の面接を3名以上担当することにより、教員等による事前事後指導を含め1事例2時間と換算して180時間以上を確保する（いずれにしても心理面接等を計90セッション以上実施することとなる）。

実務経験
 担当教員（高田先生）は公認心理師・臨床心理士であり、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラー、スクールカウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的な指導を行う。
 担当教員（西村先生）は公認心理師、及び臨床心理士の資格を有し、病院臨床の経験がある。大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動にも携わっており、それらの活動をもとに実践的な指導を行う。
 担当教員（木元先生）は児童福祉分野・家庭福祉分野は、児童福祉施設の実務経験をもとに木元がドメスティック・バイオレンス（DV）及び子ども虐待について携わっている。これらの臨床経験をもとに指導する。
 担当教員（小山先生）は公認心理師、及び臨床心理士の資格を有し、病院臨床にも携わっており、その活動をもとに実践的な指導を行う。
 担当教員（榎本先生）は公認心理師・臨床心理士であり、地域のスクールカウンセラーとして児童生徒を対象にエンカウンターグループなども実践している。この臨床実践をもとに指導する。

到達目標 (2203) ・「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、心理臨床の実務に従事するなかで当目標の到達を目指し学修する。 ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。 ・心理臨床の専門家としてのアイデンティティを確立する。	成績評価方法 心理臨床の実務において、クライアント理解や援助に対する視点が適切であるかどうか、心理療法に関する理論がクライアントの主訴やニーズに添った的確な対応として機能しているかどうか、また援助の組み立てにおいてチームアプローチ、あるいは他機関との連携等が視野に入れられたものとして構築できているかどうか、などを勘案し評価する。
--	--

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○	○			10
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>・「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、心理臨床の実務に従事するなかで当目標の到達を目指し学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。 ・心理臨床の専門家としてのアイデンティティを確立する。 <p>【予習】心理臨床にかかわる姿勢、人間関係性、各技法等について充分学習しておくこと。【復習】担当した事例、あるいはスーパーヴィジョンの内容を振り返り、理解を深めること。</p>	<p>心理臨床の実務において、クライアント理解や援助に対する視点が適切であるかどうか、心理療法に関する理論がクライアントの主訴やニーズに添った確な対応として機能しているかどうか、また援助の組み立てにおいてチームアプローチ、あるいは他機関との連携等が視野に入れられたものとして構築できているかどうか、などを勘案し評価する。</p>
授業外学習	
<p>心理臨床にかかわるあらゆる理論、技法などについて、常に並行して学習していくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

心理面接やプレイセラピー、あるいは心理検査等において指導教員より直接スーパーヴィジョンを受けることにより、クライアント理解及び対応支援技術の習得を図る。

備考

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	4	2年	通年(前期)
担当者名	木元 卓也、西村 秀明、小山 典子、榎本 俊哉、高田 晃、馬場 弓歌	関連する資格	臨床心理士 公認心理師	

授業概要
 本学附属臨床心理相談センター等において、180時間以上、指導教員の陪席を含め実際に事例を継続担当していく。具体的には、1年後期、2年通年の18ヶ月（約60週）において、平均2週間に1回（約30週）の面接を3名以上担当することにより、教員等による事前事後指導を含め1事例2時間と換算して180時間以上を確保する（いずれにしても心理面接等を計90セッション以上実施することとなる）。

実務経験
 担当教員（高田先生）は公認心理師・臨床心理士であり、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラー、スクールカウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的な指導を行う。
 担当教員（西村先生）は公認心理師、及び臨床心理士の資格を有し、病院臨床の経験がある。大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動にも携わっており、それらの活動をもとに実践的な指導を行う。
 担当教員（木元先生）は児童福祉分野・家庭福祉分野は、児童福祉施設の実務経験をもとに木元がドメスティック・バイオレンス（DV）及び子ども虐待について携わっている。これらの臨床経験をもとに指導する。
 担当教員（小山先生）は公認心理師、及び臨床心理士の資格を有し、病院臨床にも携わっており、その活動をもとに実践的な指導を行う。
 担当教員（榎本先生）は公認心理師・臨床心理士であり、地域のスクールカウンセラーとして児童生徒を対象にエンカウンターグループなども実践している。この臨床実践をもと指導する。

到達目標 (2203) ・「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、心理臨床の実務に従事するなかで当目標の到達を目指し学修する。 ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。 ・心理臨床の専門家としてのアイデンティティを確立する。	成績評価方法 心理臨床の実務において、クライアント理解や援助に対する視点が適切であるかどうか、心理療法に関する理論がクライアントの主訴やニーズに添った的確な対応として機能しているかどうか、また援助の組み立てにおいてチームアプローチ、あるいは他機関との連携等が視野に入れられたものとして構築できているかどうか、などを勘案し評価する。
--	--

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○	○			10
授業態度・授業参加度			○				10
プレゼンテーション		○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>・「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、 1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、心理臨床の実務に従事するなかで当目標の到達を目指し学修する。</p> <p>・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。 ・心理臨床の専門家としてのアイデンティティを確立する。</p> <p>【予習】心理臨床にかかわる姿勢、人間関係性、各技法等について充分学習しておくこと。【復習】担当した事例、あるいはスーパーヴィジョンの内容を振り返り、理解を深めること。</p>	<p>心理臨床の実務において、クライアント理解や援助に対する視点が適切であるかどうか、心理療法に関する理論がクライアントの主訴やニーズに添って的確な対応として機能しているかどうか、また援助の組み立てにおいてチームアプローチ、あるいは他機関との連携等が視野に入れられたものとして構築できているかどうか、などを勘案し評価する。</p>
授業外学習	
<p>心理臨床にかかわるあらゆる理論、技法などについて、常に並行して学習していくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

心理面接やプレイセラピー、あるいは心理検査等において指導教員より直接スーパーヴィジョンを受けることにより、クライアント理解及び対応支援技術の習得を図る。

備考

科目名	心理実践実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	4	2年	通年(後期)
担当者名	木元 卓也、西村 秀明、小山 典子、 榎本 俊哉、高田 晃、馬場 弓歌	関連する資格	臨床心理士 公認心理師	

授業概要
 本学附属臨床心理相談センター等において、180時間以上、指導教員の陪席を含め実際に事例を継続担当していく。
 具体的には、1年後期、2年通年の18ヶ月（約60週）において、平均2週間に1回（約30週）の面接を3名以上担当することにより、教員等による事前事後指導を含め1事例2時間と換算して180時間以上を確保する（いずれにしても心理面接等を計90セッション以上実施することとなる）。

実務経験
 担当教員（高田先生）は公認心理師・臨床心理士であり、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラー、スクールカウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的な指導を行う。
 担当教員（西村先生）は公認心理師、及び臨床心理士の資格を有し、病院臨床の経験がある。大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動にも携わっており、それらの活動をもとに実践的な指導を行う。
 担当教員（木元先生）は児童福祉分野・家庭福祉分野は、児童福祉施設の実務経験をもとに木元がドメスティック・バイオレンス（DV）及び子ども虐待について携わっている。これらの臨床経験をもとに指導する。
 担当教員（小山先生）は公認心理師、及び臨床心理士の資格を有し、病院臨床にも携わっており、その活動をもとに実践的な指導を行う。
 担当教員（榎本先生）は公認心理師・臨床心理士であり、地域のスクールカウンセラーとして児童生徒を対象にエンカウンターグループなども実践している。この臨床実践をもとに指導する。

到達目標 (2203) ・「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、1)コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2)心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4)公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、心理臨床の実務に従事するなかで当目標の到達を目指し学修する。 ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。 ・心理臨床の専門家としてのアイデンティティを確立する。	成績評価方法 心理臨床の実務において、クライアント理解や援助に対する視点が適切であるかどうか、心理療法に関する理論がクライアントの主訴やニーズに添った的確な対応として機能しているかどうか、また援助の組み立てにおいてチームアプローチ、あるいは他機関との連携等が視野に入れられたものとして構築できているかどうか、などを勘案し評価する。
--	--

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート			○		○		10	
授業態度・授業参加度			○		○		10	
プレゼンテーション		○	○	○	○		30	
グループワーク								
演習								
実習		○	○	○	○		50	

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>・「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、 1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得、2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能、3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得、4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解、となっており、心理臨床の実務に従事するなかで当目標の到達を目指し学修する。</p> <p>・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得する。 ・心理臨床の専門家としてのアイデンティティを確立する。</p> <p>【予習】心理臨床にかかわる姿勢、人間関係性、各技法等について充分学習しておくこと。【復習】担当した事例、あるいはスーパーヴィジョンの内容を振り返り、理解を深めること。</p>	<p>心理臨床の実務において、クライアント理解や援助に対する視点が適切であるかどうか、心理療法に関する理論がクライアントの主訴やニーズに添って的確な対応として機能しているかどうか、また援助の組み立てにおいてチームアプローチ、あるいは他機関との連携等が視野に入れられたものとして構築できているかどうか、などを勘案し評価する。</p>
授業外学習	
<p>心理臨床にかかわるあらゆる理論、技法などについて、常に並行して学習していくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

心理面接やプレイセラピー、あるいは心理検査等において指導教員より直接スーパーヴィジョンを受けることにより、クライアント理解及び対応支援技術の習得を図る。

備考

科目名	臨床心理実習（心理実践実習）						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	2	2年	通年(前期)			
担当者名	小山 典子、西村 秀明、榎本 俊哉、木元 卓也、馬場 弓歌		関連する資格	公認心理師 臨床心理士			
授業概要 公認心理師法により定められている，次の4項目を中心に修得する。 1) コミュニケーション技能，心理検査，心理面接，地域支援等，心理臨床に関する支援に不可欠な知識，及び技能の修得。 2) 心理臨床の専門家として，支援を要する者の心性の理解，及びニーズの把握，並びに支援計画の作成に関する技能。 3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ，多職種連携の修得。 4) 公認心理師としての職業倫理の自覚，及び法的義務の理解。 また，各自個別的な実習目標を設定し，心理臨床における専門家としてのIdentity確立に向けて学修する。 次に，本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により，心理業務の実際について学修する。実習は3領域以上の機関で実施する。また，実習中は週1回以上，実習担当教員が実習機関（施設）を訪問し，実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。							
実務経験 全員が公認心理師，または臨床心理士の資格を有しており，大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ，スクールカウンセラーや産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており，その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。							
到達目標 (2204) 「心理実践実習」における到達目標は次のとおり， 1) コミュニケーション技能，心理検査，心理面接，地域支援等，心理臨床に関する支援に不可欠な知識，及び技能の修得 2) 心理臨床の専門家として，支援を要する者の心性の理解，及びニーズの把握，並びに支援計画の作成に関する技能 3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ，多職種連携の修得 4) 公認心理師としての職業倫理の自覚，及び法的義務の理解 となっており，実務実習を通して当目標の到達を目指し学修する。				成績評価方法 実習評価，研究レポート，「研究報告会」における学修報告等で総合的に評価する。			
評価項目		評価基準					
		知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート			○	○	○		20
授業態度・授業参加度				○		○	10
プレゼンテーション			○	○	○	○	20
グループワーク							
演習							
実習			○	○	○	○	50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>全実習期間及び時間は、12日間、96時間とする。なお、実習機関の各領域は以下のとおり。</p> <p>医療保健分野：5日間（40時間） 福祉分野：5日間（40時間） 教育分野：2日間（16時間） 司法・犯罪分野：2日間（16時間）</p> <p>の医療保健分野、及び の福祉分野の実習は必修とし、 の教育分野、及び の司法・犯罪分野における実習はいずれかを選択するものとする。</p> <p>1．公認心理師法により定められている、次の4項目を中心に修得する。 1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得。 2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能。 3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得。 4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解。</p> <p>2．各自個別的な実習課題を設定し、実習機関（施設）においてどのようなことを目的に実習に臨むか、自己課題についてレポートする。</p> <p>3．次に、本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により、心理業務の実際について学修する。配属先は、実習担当教員と協議したうえでそれぞれの領域の中で適切な機関（施設）を選定する。実習は3領域以上の機関（施設）で実施する。</p> <p>4．実習中は、毎日「実習記録」を記載する。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受ける。</p> <p>5．また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関（施設）を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。</p> <p>6．実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。</p> <p>【予習】医療機関、福祉施設等、実習先の治療、援助支援等、各機能について充分学習しておくこと。（90分以上） 【復習】実習を振り返り自己吟味を深めるとともに、得た指導から心理臨床の実践における対応技能について理解の幅を広げること。（90分以上）</p>	<p>実習</p>
授業外学習	
<p>これまで学修した心理臨床に関わる諸技能を身につけ、それぞれの実習先施設の機能を充分認識したうえで、自らの実習課題、視点を設定して臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 適宜プリントを配布する。また、実習記録票、実習への心構え・要領などを配布する。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

実習中、及び実習終了後に「実習記録」他、実習先での指導内容を含め、指導教員によりスーパーヴィジョンを行う。

備考

科目名	臨床心理実習（心理実践実習）						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	2	2年	通年(後期)			
担当者名	小山 典子、西村 秀明、榎本 俊哉、木元 卓也、馬場 弓歌	関連する資格	公認心理師 臨床心理士				
授業概要 公認心理師法により定められている、次の4項目を中心に修得する。 1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得。 2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能。 3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得。 4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解。 また、各自個別的な実習目標を設定し、心理臨床における専門家としてのIdentity確立に向けて学修する。 次に、本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により、心理業務の実際について学修する。実習は3領域以上の機関で実施する。							
実務経験 全員が公認心理師、または臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、スクールカウンセラーや産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。							
到達目標 (2204) 「心理実践実習」における到達目標は次のとおり、 1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得 2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能 3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得 4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解 となっており、実務実習を通して当該目標の到達を目指し学修する。			成績評価方法 実習評価、研究レポート、「研究報告会」における学修報告等で総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○	○			20
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		20
グループワーク							
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>全実習期間及び時間は、12日間、96時間とする。なお、実習機関の各領域は以下のとおり。</p> <p>医療保健分野：5日間（40時間） 福祉分野：5日間（40時間） 教育分野：2日間（16時間） 司法・犯罪分野：2日間（16時間）</p> <p>の医療保健分野、及び の福祉分野の実習は必修とし、 の教育分野、及び の司法・犯罪分野における実習はいずれかを選択するものとする。</p> <p>1. 公認心理師法により定められている、次の4項目を中心に修得する。 1) コミュニケーション技能、心理検査、心理面接、地域支援等、心理臨床に関する支援に不可欠な知識、及び技能の修得。 2) 心理臨床の専門家として、支援を要する者の心性の理解、及びニーズの把握、並びに支援計画の作成に関する技能。 3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携の修得。 4) 公認心理師としての職業倫理の自覚、及び法的義務の理解。</p> <p>2. 各自個別的な実習課題を設定し、実習機関（施設）においてどのようなことを目的に実習に臨むか、自己課題についてレポートする。</p> <p>3. 次に、本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により、心理業務の実際について学修する。配属先は、実習担当教員と協議したうえでそれぞれの領域の中で適切な機関（施設）を選定する。実習は3領域以上の機関（施設）で実施する。</p> <p>4. 実習中は、毎日「実習記録」を記載する。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受ける。</p> <p>5. また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関（施設）を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。</p> <p>6. 実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。</p> <p>【予習】医療機関、福祉施設等、実習先の治療、援助支援等、各機能について充分学習しておくこと。（90分以上） 【復習】実習を振り返り自己吟味を深めるとともに、得た指導から心理臨床の実践における対応技能について理解の幅を広げること。（90分以上）</p>	<p>実習</p>
授業外学習	
<p>これまで学修した心理臨床に関わる諸技能を身につけ、それぞれの実習先施設の機能を充分認識したうえで、自らの実習課題、視点を設定して臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストなし。 適宜プリントを配布する。また、実習記録票、実習への心構え・要領などを配布する。 参考図書は、適時紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

実習中、及び実習終了後に「実習記録」他、実習先での指導内容を含め、指導教員によりスーパーヴィジョンを行う。

備考

科目名	臨床心理実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	1	2年	前期			
担当者名	榊本 俊哉、西村 秀明		関連する資格	臨床心理士			
授業概要 附属臨床心理相談センター等において心理臨床の実務を担当し、担当したクライアントの心理援助に関わる実務について、個別スーパービジョンおよび集団（小グループによる）スーパービジョン、ケースカンファレンス等を実施する。また、心理臨床に関する研究論文や文献を参考に、グループワークを通してクライアント理解や面接・心理療法アプローチについて多角的に検討を加えていくことによって、心理専門職としての専門性を深化させる。 なお、この実習の担当者は臨床心理士であり、主として医療保健領域、教育領域および産業組織領域における実務経験を有している。この実務経験をもとに、臨床現場における支援や倫理の実際問題についても検討する。							
到達目標 （2205） ・心理臨床において必要な資質・能力・技術を習得することはもとより、クライアントに対し視野を広げた俯瞰的立場から支援の構築や倫理的配慮ができるようになる。 ・心理専門職としてのアイデンティティを確立する。			成績評価方法 クライアントの理解度、援助の視点、面接の組み立て、総合的なクライアント評価など、心理臨床に携わる専門家としての技能や感性をもって対応できているかどうか、また多角的な視点で捉えて援助の構築ができているかどうか、倫理的配慮は十分であるかなどの観点から、実習内容およびレポートの内容を総合して評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○		○			30
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション							
グループワーク	○	○	○	○	○		10
演習							
実習	○	○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1)～15) 自ら担当した心理臨床事例をレポートし、個人・集団（小グループ）スーパーヴィジョン、ケースカンファレンス等を実施する。心理臨床に関する研究論文や文献を参考に、グループワークを通してクライアント理解や面接・心理療法アプローチについて多角的に検討する。</p> <p>【予習】担当した事例についてのレポート、および関連文献について学習。（60分）</p> <p>【復習】グループワーク・グループスーパーヴィジョンの振り返り、および関連文献の復習。（60分）</p>	<p>グループワーク グループスーパーヴィジョン ケースカンファレンス</p>
授業外学習	
<p>附属臨床心理相談センター等で従事した心理臨床の実践におけるケースレポートを、面接あるいはプレイセラピーの構造、視点、方針、セラピスト自身の位置などについて常にまとめておくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは指定せず、適宜プリントを配布、または参考図書を紹介する。</p>	<p>心理臨床に関わるすべての科目。</p>

課題に対するフィードバック

心理専門職としてのアイデンティティ確立を視野に入れてスーパーヴィジョンを実施する。

備考

科目名	患者論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	西村 秀明	関連する資格		

授業概要

人間は誕生から死までその生涯の中で、常に他人の援助が必要となる可能性を有している。人類のスタートより、援助する者とされる者の関係があったと考えられる。現代社会の下での患者とは何か、治療者とは何かを問う。また、社会的自己としての危機と症状化との関連についてその心理機序を検討するとともに、自己回復に至る過程を患者自身のエピソードを通して明らかにし、治療者としての位置を明確にすべく学修する。

到達目標

2206

- ・治療者 患者関係において、治療者としての位置を知る。
- ・治療者 患者関係における、患者側の心性が理解できる。

成績評価方法

定期試験、及びレポート、グループワークなどで総合評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○		○			20
宿題、授業外レポート	○	○		○			50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク	○	○	○		○		20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 精神疾患と法律 取り締まりの対象とされる患者 【予習】精神保健福祉法について学習しておくこと（120分）。 【復習】法と人権について深化させる（60分）。	
2) 患者からみた精神科医療、及び偏見・差別 【予習】精神科医療の歴史について調べておくこと（120分）。 【復習】患者の声から精神科医療について振り返る（60分）。	小レポート
3) 現代社会とストレス・うつ、及びその対応に対峙する社会的価値観 【予習】ストレス全般について学習しておくこと（90分）。 【復習】社会的構造の変遷とストレスとの関連を確認する（60分）。	
4) 呪縛の構造：教育の歴史と反発達論 【予習】発達概念について調べておくこと（90分）。 【復習】社会的構造の変化が発達に何を求めたか確認する（60分）。	
5) 不登校理解の変遷と精神神経学会における批判 【予習】不登校現象の変遷を統計的に調べておくこと（90分）。 【復習】精神科領域における不登校理解の変遷を確認する（90分）。	
6) ひきこもり理解の変遷、及び「不登校」「ひきこもり」に映る現代社会 【予習】ひきこもりの定義について調べておくこと（90分）。【復習】不登校・ひきこもり理解の変遷を社会的構造から捉え直してみる（90分）。	小レポート
7) 被害者学を通してみた患者・遺族の心理 【予習】PTSDについて学習しておくこと（90分）。 【復習】心的外傷とその対応について習得する（60分）。	
8) 統合失調症の理解と臨床心理的地域援助 【予習】障害者自立支援法について学習しておくこと（120分）。 【復習】地域支援活動の現状について認識を深める（60分）。	
9) アルコール依存症の臨床 初めに人酒を呑み、次に酒酒を呑み、後に酒人を呑む 【予習】嗜癖の臨床について学習しておくこと（90分）。 【復習】嗜癖に対する地域支援の現状を理解すること（60分）。	小テスト
10) 高齢者の精神科心理臨床 認知症に見える世界 【予習】高齢者心理について学習しておくこと（90分）。 【復習】高齢者の地域支援について理解を深める（90分）。	小テスト
11) 当事者のエピソード：統合失調症 【予習】統合失調症の生活様態について調べておくこと（90分）。 【復習】実態から支援について理解を深める（60分）。	グループワーク（検討）/レポート
12) 当事者のエピソード：統合失調症 【予習】同。【復習】同。	グループワーク（検討）/レポート
13) 当事者のエピソード：アルコール依存症 【予習】アルコール依存症の生活様態について調べておくこと（90分）。 【復習】実態から支援について理解を深める（60分）。	グループワーク（検討）/レポート
14) 当事者のエピソード：アルコール依存症 【予習】同。【復習】同。	グループワーク（検討）/レポート
15) 総括：心の病と社会的構造との関連について 【予習】これまでの講義を振り返る（120分）。 【復習】心の病が社会病理としてどのように理解されるか深化させる（90分）。	グループワーク（検討）/レポート
授業外学習	
『人間の不適応を社会病理学的に捉え直すとするような様相で見えてくるか』というテーマであり、社会学系の文献での学習を怠らないこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストなし。 参考図書は、適時紹介する。	臨床心理学特論 ・ 保健医療分野に関する理論と支援の展開

課題に対するフィードバック

レポートに対し、コメントを記してフィードバックする。

備考

科目名	病院臨床心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	原田 雅史	関連する資格		

授業概要

本授業は対面で実施します。病院臨床での心理職の活躍の場は、精神科、総合病院、小児科、周産期医療、終末期医療、移植医療、遺伝カウンセリングなど、どんどん広がってきています。医療保健領域のどこで働いたとしても、自分のやるべきことを主体的に見いだしていけるような、心理職としての基本的な視点を、さまざまな事例を通して、できる限り実践的に学んでいきます。

精神科病院の臨床心理士としての実務経験を持つ教員が、精神科臨床を中心に、医療保健領域において求められる心理職の役割について講義を行います。

到達目標

2207

病院臨床における心理職の役割について、他職種との協働の重要性まで含めて、具体的なイメージがもてるようになること。

成績評価方法

意欲、姿勢、試験、小レポート、グループワークで総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)	○	○	○	○			50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			20
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク			○	○	○		10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 病院における心理臨床の広がり / 医療と社会	
2) 発達について（1）	
3) 発達について（2）	
4) 精神疾患（1）	
5) 精神疾患（2）	
6) 精神疾患（3）	
7) 臨床の基礎（1）	
8) 臨床の基礎（2）	
9) 臨床の基礎（3） 【復習】講義1-9に関して小レポート作成（60分）	
10) 精神科の事例を通して心理臨床を考える 【予習】講義10-14の配布資料を読み込んでくる（120分）	グループワーク
11) 周産期の事例を通して心理臨床を考える	グループワーク
12) 小児科の事例を通して心理臨床を考える	グループワーク
13) HIVの事例を通して心理臨床を考える	グループワーク
14) 緩和ケアの事例を通して心理臨床を考える	グループワーク
15) 病院における心理臨床の課題	
授業外学習	
事前に配る資料をよく読み込んでくること。与えられたテーマについて十分に思いを巡らすこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜、プリントを配布します。	精神医学特論、心身医学特論、医療倫理

課題に対するフィードバック

授業中の対話を重視します。

備考

科目名	特別研究(修士論文を含む)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	4	1年	通年(前期)
担当者名	榎本 俊哉、小野 洋平、三島 瑞穂、脇 貴典、森本 裕子、木元 卓也、小山 典子、馬場 弓歌		関連する資格	

授業概要

特別研究は修士論文として完成させていくものであり、履修生が主体となって研究課題を研究指導教員とよく検討して決め、研究計画を立て、緻密に進めていくことが求められる。この過程の中で、研究指導教員に随時指導を受け、発表を重ねることを通して、よりよい研究論文に仕上げていく。

到達目標

(3001)
研究課題について研究計画を立てる。
研究計画にしたがって修士論文を執筆する。

成績評価方法

以下の評価項目について総合的に評価する。

1. 研究目的の学術的あるいは地域社会的意義
2. 先行研究や文献・資料の適切な引用と参考
3. 方法論の妥当性
4. 論理的整合性および研究への真摯な態度
5. 専門性に基づく臨床心理学への貢献

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							100
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 研究指導教員を決定する。	
2) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
3) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
4) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
5) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
6) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
7) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
8) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
9) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
10) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
11) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
12) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
13) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
14) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
15) 関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
授業外学習	
関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
研究テーマに関連する文献・資料	

課題に対するフィードバック

研究指導教員のゼミにおいて適宜フィードバックを行う。

備考

科目名	特別研究(修士論文を含む)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	4	1年	通年(後期)
担当者名	榎本 俊哉、小野 洋平、三島 瑞穂、脇 貴典、森本 裕子、木元 卓也、小山 典子、馬場 弓歌		関連する資格	

授業概要

特別研究は修士論文として完成させていくものであり、履修生が主体となって研究課題を研究指導教員とよく検討して決め、研究計画を立て、緻密に進めていくことが求められる。この過程の中で、研究指導教員に随時指導を受け、発表を重ねることを通して、よりよい研究論文に仕上げていく。

到達目標

(3001)
研究課題について研究計画を立てる。
研究計画にしたがって修士論文を執筆する。

成績評価方法

以下の評価項目について総合的に評価する。

1. 研究目的の学術的あるいは地域社会的意義
2. 先行研究や文献・資料の適切な引用と参考
3. 方法論の妥当性
4. 論理的整合性および研究への真摯な態度
5. 専門性に基づく臨床心理学への貢献

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							100
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
2)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
3)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
4)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
5)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
6)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
7)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
8)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
9)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
10)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
11)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
12)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
13)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
14)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
15)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
授業外学習		
関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
研究テーマに関連する文献・資料		

課題に対するフィードバック

研究指導教員のゼミにおいて適宜フィードバックを行う。

備考

科目名	特別研究(修士論文を含む)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	4	2年	通年(前期)
担当者名	榎本 俊哉、小野 洋平、三島 瑞穂、脇 貴典、森本 裕子、木元 卓也、小山 典子、馬場 弓歌		関連する資格	

授業概要

特別研究は修士論文として完成させていくものであり、履修生が主体となって研究課題を研究指導教員とよく検討して決め、研究計画を立て、緻密に進めていくことが求められる。この過程の中で、研究指導教員に随時指導を受け、発表を重ねることを通して、よりよい研究論文に仕上げていく。

到達目標

(3002)
研究計画にしたがって修士論文を執筆し、発表する。

成績評価方法

以下の評価項目について総合的に評価する。

1. 研究目的の学術的あるいは地域社会的意義
2. 先行研究や文献・資料の適切な引用と参考
3. 方法論の妥当性
4. 論理的整合性および研究への真摯な態度
5. 専門性に基づく臨床心理学への貢献

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							100
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
2)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
3)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
4)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
5)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
6)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
7)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
8)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
9)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
10)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
11)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
12)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
13)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
14)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
15)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
授業外学習		
関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
研究テーマに関連する文献・資料		

課題に対するフィードバック

研究指導教員のゼミにおいて適宜フィードバックを行う。

備考

科目名	特別研究(修士論文を含む)						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	4	2年	通年(後期)			
担当者名	榎本 俊哉、小野 洋平、三島 瑞穂、脇 貴典、森本 裕子、木元 卓也、小山 典子、馬場 弓歌		関連する資格				
授業概要 特別研究は修士論文として完成させていくものであり、履修生が主体となって研究課題を研究指導教員とよく検討して決め、研究計画を立て、緻密に進めていくことが求められる。この過程の中で、研究指導教員に随時指導を受け、発表を重ねることを通して、よりよい研究論文に仕上げていく。							
到達目標 (3002) 研究計画にしたがって修士論文を執筆し、発表する。			成績評価方法 以下の評価項目について総合的に評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的の学術的あるいは地域社会的意義 2. 先行研究や文献・資料の適切な引用と参考 3. 方法論の妥当性 4. 論理的整合性および研究への真摯な態度 5. 専門性に基づく臨床心理学への貢献 				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							100
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
2)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
3)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
4)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
5)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
6)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
7)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
8)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
9)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
10)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
11)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
12)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
13)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
14)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
15)	関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆	研究指導教員のゼミにおいて、プレゼンテーションやディスカッションを行う
授業外学習		
関連文献の精読、研究計画の作成、調査等の実施、結果の整理及び考察と修士論文の執筆		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
研究テーマに関連する文献・資料		

課題に対するフィードバック

研究指導教員のゼミにおいて適宜フィードバックを行う。

備考